



一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

設立50周年記念誌

50



一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

設立50周年記念誌

Contents	2	プロローグ
	4	発刊にあたって (一社)大阪空気調和衛生工業協会 第13代会長 北村 広外志
	6	50周年に寄せて 大阪府知事 吉村 洋文氏 大阪市長 横山 英幸氏 国土交通省 近畿地方整備局長 見坂 茂範氏 (一社)日本空調衛生工事業協会 会長 藤澤 一郎氏
	10	設立50周年記念式典・祝賀会 2024年(令和6年)5月14日 リーガロイヤルホテル
	14	座談会 1 [なでしこ設備会] 空調衛生工事業における女性の働き方改革とは
	26	座談会 2 [空調・衛生部会] 未来社会を支える空調衛生工事業を探る
	38	協会の活動 協会組織図、役員・専門委員・事務局構成/ 総務委員会の活動/経営委員会の活動/ 広報委員会の活動/技術委員会の活動/ 労務委員会の活動
	46	50年のあゆみ 1974年度(昭和49年度)～2023年度(令和5年度) 協会年度:5月～翌4月
	56	歴代役員一覧・役員一同
	68	会員・賛助会員名簿
	72	編集後記

50

協会会章

「澄んだ空気と澄んだ水」が回転しながら「O」(オー)のシルエットを形成するイメージ。1995年(平成7年)12月に制定されました。



例えばこんなことを考えてみた。

最近、近所にできた大型複合施設に行ってみる。

スーパー、核店舗、映画館…いろんなものがそろっている。

わくわく感。

一歩中に入ると、「涼しい!」。外は猛暑、ありがたい。

何層にも吹き抜けて開放感があり、きらびやかな装飾。

衣料品、食料品、医薬品、化粧品、書籍、文具、電気製品…ホームセンターもある。

お気に入りを購入し、一息ついたらトイレに行きたくなった。

広い、きれい、豪華。快適で使い心地もいい。

大満足で帰宅。

ふと気づいたことがある。

どこに行っても「涼しい」し、「明るい」し、トイレは手をかざしただけで水が出る。

どうやって?

建物の中を涼しくし、明るくし、水が出るようにする。そんな人がいるに違いない。

勤める前、感じた素朴な疑問。

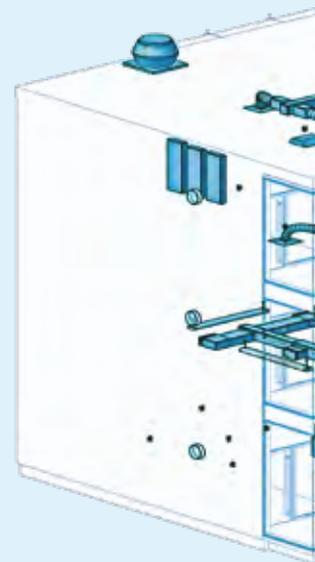
街にはたくさんの建物があり、その中でさまざまな人が生活している。

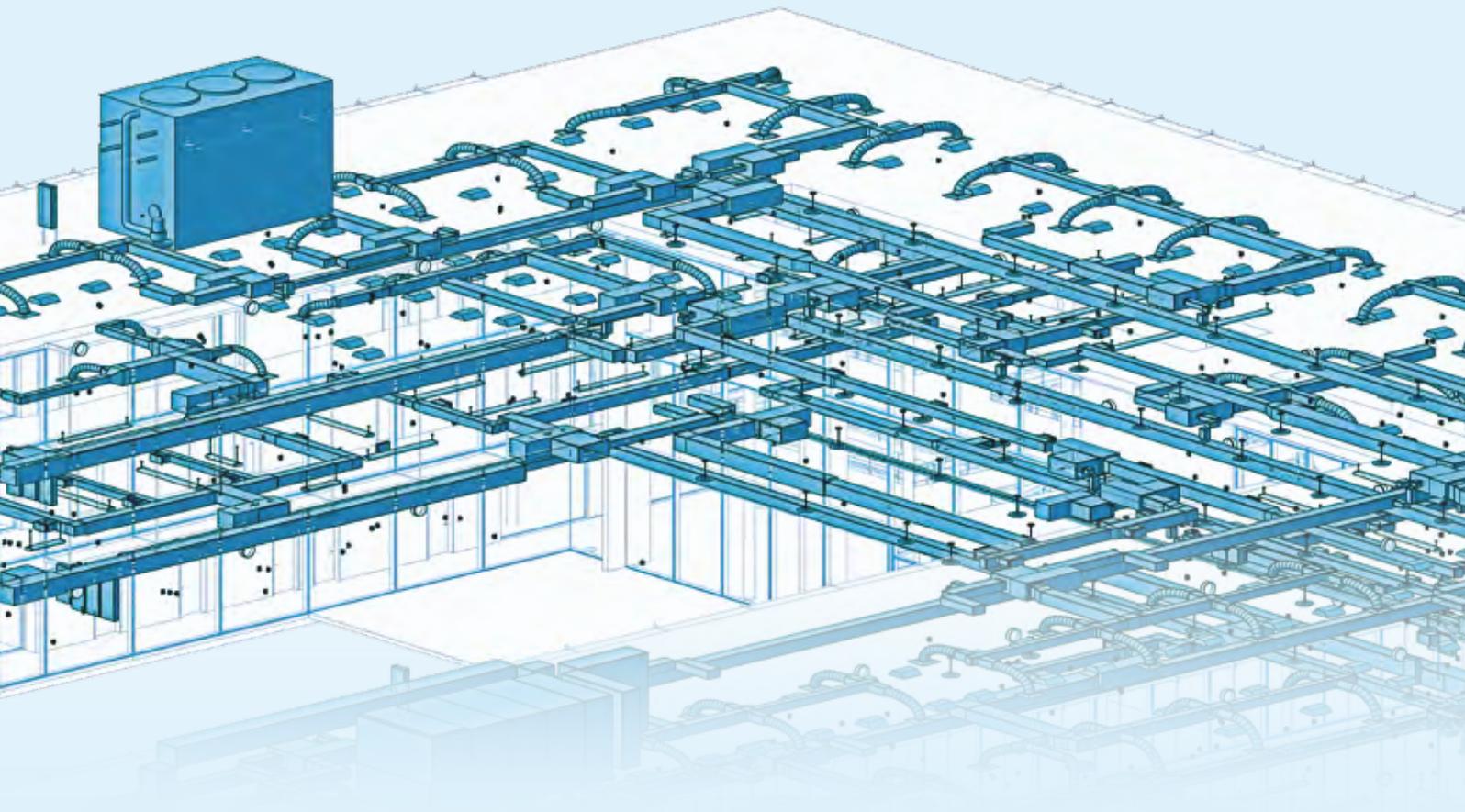
そんな建物たちに人が利用できる快適な空間を提供している。

そして今では、私もその一翼を担っている。

そうか…そういえば近くに建築中のうちの工事現場があった。

子どもと一緒にいってみよう。





お父さん、いっぱい人が動いているいろいろな仕事をしているんだね。
どれがお父さんの仕事？ あのたくさんの吊っているパイプ？
お父さんの仕事は建物の中にかくれてしまうって聞いた。
でもすごく大事な役目をする仕事みたいだね。

工事の囲いの中はどこを見ても男の人がほとんど、
男ばかりなの？

あの日から前を通るたびに見てしまう。

建物が大きくなっていく。

中は今どんな風になっているんだろう。

今日は土曜日。中から音がするよ。

休みなしで働いているの？ 休日が増えたって？

女の人が増えてきてるの？

女の人が工事現場で

イキイキと働く姿も見れるんだ。

そして… 囲いがなくなった。

突然、目の前に巨大な建物が出現した。

たくさんの人々が入り出している。

中はいい感じ。でもお父さんの仕事は…

ほとんど見えない…

建物に命を吹き込んだのは、

お父さんたちの仕事だって聞いた。

お父さんの仕事って、すごい！

発刊にあたって



(一社)大阪空気調和衛生工業協会
第13代会長

北村 広外志

一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会は、本年2月をもって満50周年を迎えることができました。これもひとえに今日まで、ご指導、ご支援を賜りました関係行政機関をはじめ、各団体ならびに役員・会員・賛助会員の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

1974年2月に社団法人として大阪府の認可を受け、2013年には一般社団法人へ移行し、今日に至るまでの50年間は、激動といっても過言ではありません。

オイルショックに始まり、狂乱物価と表現されたインフレ状態が続き、その後のバブル経済を経て「失われた30年」とも言うべき長期不況に見舞われていましたが、ようやく経済好況の兆しが見えてきた矢先に、一転、2020年初頭より新型コロナウイルスが猛威を奮いだし、世界的大流行（パンデミック）となり、収束に向かうまで3年以上もの年月を費やしました。

そして、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする2025年大阪・関西万博を契機に、インバウンドだけにとどまらずウェルビーイング産業等の発展による関西経済圏の活性化とともに、持続可能な社会の実現に向けた技術の発展が期待されております。



地球温暖化対策として、産業革命からの気温上昇を1.5度以内に抑えるという世界共通の目標を踏まえ、我が国においても、2050年「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）」を目標に掲げ、グリーン社会の実現に向けて、住宅・建築物において、さらなる省エネルギー化に向けた取り組みが行われております。

空調衛生工事業界としまして、これまで培ってきた省エネ・省CO₂の最先端技術を駆使して、「脱炭素社会」の実現に向け、一丸となって先導的役割を担い、業界としてのプレゼンスをさらに高めていく必要があります。

一方、本年4月から時間外労働の上限規制が始まっており、「働き方改革」のより一層の推進が求められております。そのためには、ICT活用による施工の省力化技術の一層の普及や長時間労働を余儀なくされる現場における業務の効率化、合理化、バックアップ体制の確立等、さらなる生産性向上に向けた取り組みが始まっております。

当協会は、半世紀にわたるあゆみと、業界を支える会員企業の社員による座談会等を本記念誌に掲載することにより、空調衛生工事業が次世代に魅力ある産業であることを発信し、未来へとつないでまいります。

結びに、今後とも協会活動の活性化と業界のさらなる発展のために、皆様のなお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



50周年に寄せて



大阪府知事

吉村 洋文 氏

この度、一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会が設立50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。貴協会の皆様方におかれましては、日頃から建設業の振興を通じ、大阪・関西万博への協力をはじめ、大阪府政の推進にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

貴協会におかれましては、1974年の発足以来、空調、衛生設備等の調査・研究などを通じて設備工事の適切な施工を確保するとともに、公共の福祉増進に寄与する事業に取り組まれており、これまでのご尽力に対し、改めて深く敬意と感謝の意を表します。

さて、令和6年度は、開催まで1年を切った大阪・関西万博の成功に向けた総仕上げを行うとともに、ポスト万博に向け、大阪を次なるステージに飛躍させる、そのチャレンジを進める年です。

万博の成功に向け、大阪が有する多様な資源を結集し、人々の記憶に残るインパクトのあるイベントの開催や、世界に向けた情報発信の強化を通じて、万博への機運醸成を図ってまいります。

また、大阪の成長を支える基盤として、なにわ筋線や淀川左岸線などの鉄道・道路ネットワークの整備や、ランドデザインに基づくまちづくりなどを着実に進めてまいります。さらに、大阪・関西の強みを最大限に活かし、ライフサイエンス、カーボンニュートラルなど、大阪経済をけん引する産業や、イノベーションの源泉となるスタートアップの創出に取り組んでまいります。

こうした施策を推進していくためには、建設業の果たす役割が非常に重要であり、空調、衛生設備等の設置工事や保守管理に加え、省エネルギーや省CO₂などに取り組まれ、高い技術力をお持ちの貴協会及び会員の皆様のお力添えが不可欠です。

今後とも、大阪の建設業、大阪・関西経済のけん引役としてより一層のご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、貴協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



大阪市長

横山 英幸 氏

一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会が設立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。皆様方には、平素から大阪市政の各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

貴協会は、昭和49年2月に設立されて以来、快適空間の創出と地球環境の保全を担う産業として空調・衛生工事に関わる技術向上のための調査・研究をはじめ、省エネルギーなどの技術研修や啓発事業を積極的に進められ、業界の発展はもとより、社会の発展に努めておられることは誠に意義深く、会員の皆様方のご熱意とたゆまぬご努力に深く敬意を表します。

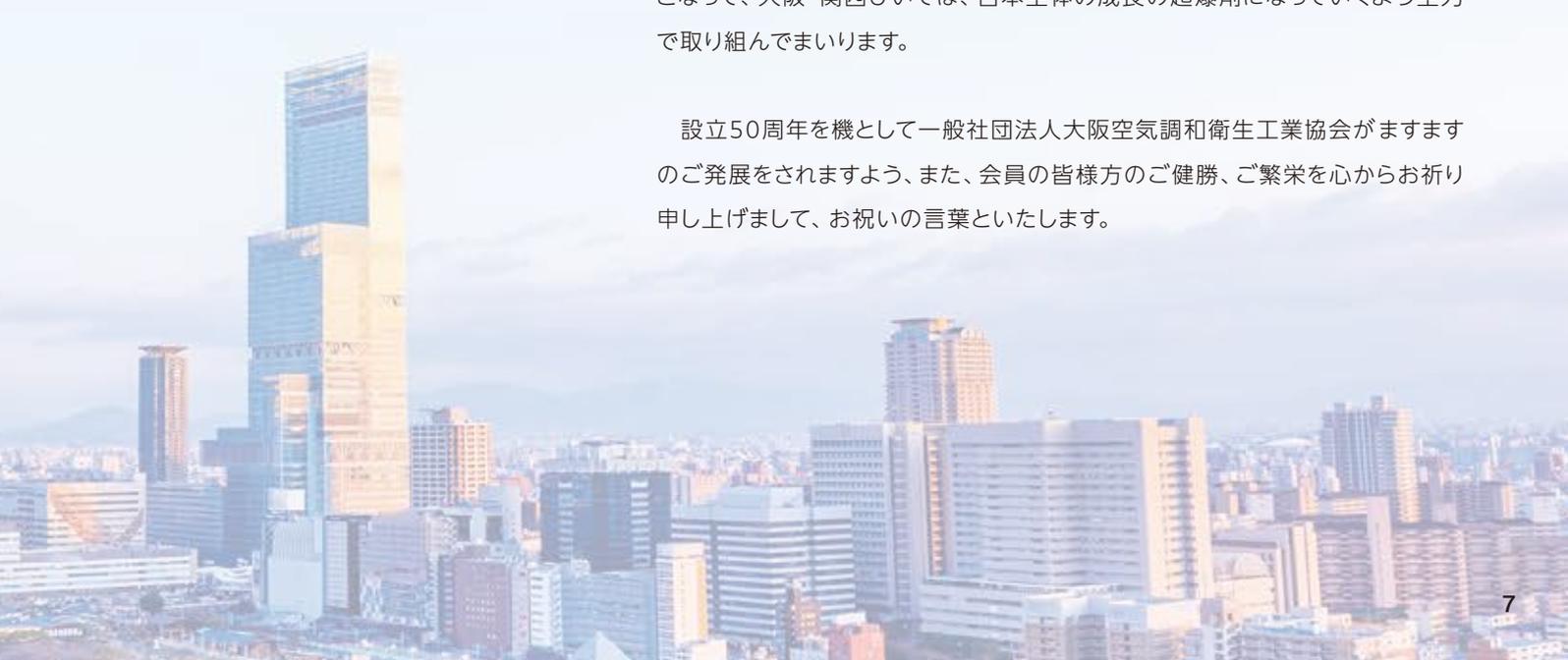
皆様方には、さらなる活動の進展を図られますとともに、これまで空調・衛生業界が培った技術と経験により、安全・安心で快適な社会環境の実現に向け引き続き貢献いただきますよう期待申し上げます。

大阪市といたしましても「地域との連携による魅力と活気あふれるまちづくり」「安全・安心に住み続けられる住まいづくり」「持続可能で効率的な公共建築づくり」を施策に掲げ、まちの元気と魅力を引き出すとともに安全・快適な居住空間・都市空間づくりを推進してまいります。そのため皆様方のお力添えが不可欠と考えており、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本年1月1日に発生しました、令和6年能登半島地震により、犠牲となられた方々にあらためて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。大阪市としましても、職員を被災地に派遣するなど、引き続き大阪府や関西広域連合などと連携しながら支援活動を行ってまいります。

2025年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」が開催されます。万博会場では、世界150カ国を超える国々の英知が結集され、未来に向けた技術やサービスが紹介されます。このような出展・展示を、次代を担う子どもや若者たちに直接体験いただくことで、新しい未来社会を創造する世代が育まれていくとともに、次の時代を切り拓く新たなイノベーションとなって、大阪・関西ひいては、日本全体の成長の起爆剤になっていくよう全力で取り組んでまいります。

設立50周年を機として一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会がますますのご発展をされますよう、また、会員の皆様方のご健勝、ご繁栄を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。



50周年に寄せて



国土交通省
近畿地方整備局長

見坂 茂範 氏

一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会が設立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。また、平素より、国土交通行政の推進に特段のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協会におかれましては、かねてより空気調和・衛生設備工事業における技術水準の向上、担い手の確保・育成に積極的に取り組まれるとともに、設備工事の適正な施工の確保を通じ、良質な社会資本の整備と地域社会の発展に寄与されております。これまでのご尽力、ご活躍に深く敬意を表します。

近年は、平均気温の上昇や、自然災害が全国各地で頻発化・激甚化しており、災害対応力の強化とともに、地球温暖化対策の重要性が非常に高くなっております。国土交通省では、2050年カーボンニュートラルへの実現に向け、営繕事業において新築する建物については、原則ZEB Oriented相当以上の整備を行うこととしております。従来からあります建築設備技術はもとより、新たな環境技術の採用や自然エネルギーの導入拡大も目指しており、これら対策を着実に実施するためには、建築設備技術に精通された皆様方のお力添えが不可欠であり、皆様方のご協力のもと、質の高い官庁施設の整備に努めて参ります。

さて、建設業界の高齢化や人材不足の課題を抱えるなか、労働時間規制による影響が懸念されており、私どもとしても危機感をもって受け止めております。こうしたピンチをむしろチャンスと捉えて働き方改革はもとより賃上げなどの処遇改善にも取り組み、持続可能な建設業界を実現すべく努力していきたいと考えております。国土交通省としましても、適正な工期設定、施工期間の平準化、週休2日の推進を着実に進めるとともに、i-Constructionをさらに深化させ、働き方改革や生産性の向上を実現していきたいと考えております。

貴協会におかれましては、今後とも建築設備の品質確保や設備工事の適正な施工の確保に向けて、これまで蓄積された技術力を十二分に発揮されますとともに、建築設備技術の発展・向上に、先駆的な役割を果たしていただくことを期待しております。

結びになりますが、このたび50周年を迎えられた貴協会の益々のご発展と、会員の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和6年4月吉日



(一社)日本空調衛生工事業協会
会長

藤澤 一郎 氏

一般社団法人大阪空気調和衛生工事業協会が設立50周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

貴協会は、前身の大阪管工設備研究会を発展させ、空調衛生工事業の健全な発展と社会的地位の向上を図るため、昭和49年2月、社団法人として発足されました。以来、半世紀の長きにわたり、平成25年4月の公益法人改革に伴う一般社団法人への移行を経て、歴代の会長、役員各位、そして会員の皆様も一致団結して幾多の試練を乗り越えられ、近畿地区はもとより全国の業界をも先導される協会に発展してこられました。設立30周年後の20年間をみても、平成20年5月に大阪府管工事業協同組合との統合を果たされ、平成19年12月には大阪府と防災協定を締結して地域防災に貢献するとともに、令和3年3月には多様な人材の活躍を促進するため、会員企業の女性社員による「なでしこ設備会」を設置するなど、業界の地位向上と地域社会の発展に多大な貢献をされてきました。特に、来年4月に開幕する「2025大阪・関西万博」には、今年4月から時間外労働の上限規制が適用される状況下において、協会を挙げて対応されておられます。ここに、深甚なる敬意を表する次第であります。

我が国経済は、現在、ようやくデフレ経済から脱却し、物価上昇と金利のある普通の経済へ戻ろうとしています。このような中、空調衛生工事業も、一昨年来、堅調な民間設備投資に支えられて受注は堅調に推移しておりますが、人手不足や労務費の上昇、さらには資機材の価格上昇、納期遅延などにより、収益面では厳しい状況が続いております。加えて、本年4月から建設業に時間外労働の上限規制が適用されており、当然のこととして適正に対応する必要があるものの、これからの業界を支える担い手を確保・育成していくためには、働き方改革をさらに推し進め、空調衛生工事業を「やりたい仕事、働きたい職場」として認知されるよう取り組んでいく必要があります。

また、昨年の世界的な猛暑を見るまでもなく地球温暖化対策は待ったなしの状況にあります。温室効果ガスの排出量は、我が国では減少傾向にあります。世界全体では増加しており、年々過去最高を更新しております。日空衛では、4月の理事会で「空調衛生工事業のカーボンニュートラル行動計画」を決定し、2050年の温室効果ガス排出の実質ゼロに貢献すべく取り組みを強化することとしております。貴協会の皆様にも積極的な対応をお願い申し上げます。

最後に、貴協会が、50年間の貴重なご経験をもとに、空調衛生工事業のさらなる発展に向け、引き続きご尽力を賜りますことをお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご繁栄を心より祈念申し上げます。

設立50周年記念式典・祝賀会 2024年(令和6年)5月14日 リーガロイヤルホテル

多数の来賓を迎え約270人の出席のもと記念式典が行われました。

北村広外志会長の式辞に続き、大阪府知事、大阪市長、近畿地方整備局長、

日本空調衛生工事業協会会長から祝辞を頂戴、その後、協会に貢献された方々に感謝状が贈呈されました。

式典閉会のあと、記念祝賀会には約300人が出席、盛大に開催されました。

記念式典

次第

- 開会の辞
- 物故者に対する黙祷
- 式辞 北村 広外志 会長
- 来賓祝辞
 - 国土交通省
近畿地方整備局長 見坂 茂範 氏
代読:国土交通省 近畿地方整備局
管轄部長 中山 義章 氏
 - 大阪府知事 吉村 洋文 氏
代読:大阪府副知事 森岡 武一 氏
 - 大阪市長 横山 英幸 氏
代読:大阪市都市整備局
建築設備担当部長 青木 敬史 氏
 - (-社)日本空調衛生工事業協会
会長 藤澤 一郎 氏
- 感謝状の贈呈
- 閉会の辞 若林 尚史 副会長



北村 広外志 会長



局長祝辞代読
国土交通省 近畿地方整備局
管轄部長 中山 義章 氏



知事祝辞代読
大阪府副知事 森岡 武一 氏



市長祝辞代読
大阪市都市整備局
建築設備担当部長 青木 敬史 氏



(-社)日本空調衛生工事業協会
会長 藤澤 一郎 氏



若林 尚史 副会長





感謝状贈呈者

歴代会長

池田 隆之

理事

近藤 徹
城口 俊雄
若林 尚史
木村 之彦
中村 淳一
福地 文雄

特別功労者

前田 隆司

安全労務専門委員

稲岡 栄治
宮地 直人

技術専門委員

岩見 康秀
瀧口 佳典
横田 和久

青年部会

秋田 裕史
石田 直人
植田 篤史
植田 洋史
川崎 和徳
岸田 佑介
北川 慈朗
七條 茂樹
竹下 泰弘
徳久 哲也

長元 伸吾
中山 裕章
久本 哲哉
古川 潤
本多 貴史
山野 高晴
山本 勝也

事務局

井上 彩子
大金 智子



記念祝賀会

次第

- 開会のことば
- 会長挨拶 北村 広外志 会長
- 祝電披露
- 乾杯 城口 俊雄 副会長
- アトラクション
- 閉会のことば 河部 和生 副会長



北村 広外志 会長



城口 俊雄 副会長



河部 和生 副会長



座談会 1 [なでしこ設備会]

空調衛生工事業における女性の働き方改革とは

座談会 2 [空調・衛生部会]

未来社会を支える空調衛生工事業を探る

50

座談会 1 [なでしこ設備会]

空調衛生工事業における女性の働き方改革とは



西原 阿沙美

【現場代理人】
若林設備工業(株)
技術営業部

川本 菜月

【営業】
㈱精研
営業二部

伊藤 沙也香

【現場支援】
㈱大阪城口研究所
工務部サブリーダー

岸田 莉央

【資材・購買】
須賀工業(株) 大阪支社
管理部

北澤 紗央

【施工管理】
三機工業(株) 関西支社
空調衛生技術1部主任

坂本 明子

【現場支援】
ダイダ(株) 西日本事業部
現場サポート部長

司会

西川 紀子

2023年(令和5年)11月15日
シティプラザ大阪にて

設備工事業界の仕事と魅力は

多彩な事業、多彩な職種が魅力

●西川 大阪空気調和衛生工業協会の設立50周年記念誌の企画で、なでこ設備会に所属する女性社員に集まっていただきました。少子高齢化と生産人口の減少により、空調衛生工事業界も他産業と同様に人材確保で厳しい状況が続いています。空調衛生工事業を含む建設業では近年、女性活躍を推進する機運が飛躍的に高まっています。

これまでの3K、きつい、汚い、危険といったマイナスの業界イメージを払しょくし、女性や若い世代に魅力的な業界を目指そうと、出産・育児後に復職しやすい制度の構築や現場の環境改善など、女性が働きやすい職場環境づくりが進みつつあります。女性社員のキャリアアップを見据え、女性管理職の比率拡大も広がっており、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得する企業も増えました。空調衛生工事業で、女性社員が携わる仕事の分野は総務、営業、設計、現場支援、現場管理など多岐にわたります。

皆さんの業務から見た、企業の女性活躍推進に向けた取り組みの最前線や今後の課題などについてお話しいただき、将来の空調衛生工事業で多くの女性が活躍するために何が必要かなどを話し合い、業界に入職を希望する方々にやりがいをPRしていただこうと思います。自己紹介からお願いいたします。

●川本 株式会社精研、設備工事本部営業部の川本です。主な仕事内容は、客先での打ち合わせや見積書、提案書の作成です。入社したきっかけは、出身大学OGが多く入社しており、その経緯で大学から紹介され、弊社を知りました。サブコンとしての事業以外にも、土木工事、地盤凍結工法など多彩な事業を行っているところに魅力を感じ、入社を決めました。

●岸田 須賀工業株式会社、管理部調達課の岸田です。社内では、現場に納入する機器・施工会社の選定や価格交渉を主に担当し、現場の予算管理や現場で納入した資機材の支払処理も行っています。志望動機は、採用情報を見て魅力的に感じ入社を決めました。入社後、社風や社員同士の仲の良さを実感し、再確認しました。地図に残る建物を建設する仕事に携われることにも興味を持って入社を決めました。

学生時代から現場・サブコンに興味

●西原 若林設備工業株式会社、技術営業部の西原です。仕事内容は、現場に出て施工内容を指示する、現場管理をしています。現在は、育児休業中です。今まで約5年やってきた現場管理の経験を基に社内で施工図や竣工図、図面などのフォロー、見積り作成、工程を確認して現場機器・管材の手配などを行っていました。就職動機ですが、高校生の頃から建築業界に入りたい、現場に立ちたいと考えました。工業大学に進み、就職活動を考える大学3年生の頃にサブコンに興味を持って調べていく中で、設備に興味を持ち、弊社へ就職しました。

DX導入を支援

●坂本 ダイダン株式会社の現場サポート部の坂本です。仕事内容は建築設備現場に関するDX(デジタルトランスフォーメーション)推進です。デジタル技術を活用することでビジネスモデルそのものの変革をするに取り組んでいます。そしてDXを現場に普及するための教育も担当しています。入社動機は、就職活動の時期が就職氷河期で、企業の多くが採用を見送っており、新入社員を受け入れる会社が少なかったのですが、建築業界に携わる父親にお勧めの会社を聞いたところ、弊社の名前が挙がり、入社することに決めました。

文系から業界に挑戦

●伊藤 株式会社大阪城口研究所、工務部生産支援室の伊藤です。仕事内容は、施工管理士として主に衛生空調設備の施工管理に携わっていましたが、5年ほど現場を経験し、現在は新設の生産支援室に所属しています。そこで現場のサポート業務を担い、社内業務の効率化の検討なども行っています。この業界と弊社の志望動機は、建物を見るのが好きだったことと、建設業界へ興味があったことです。大学で文系の学部で学んでいたため、乗り越えるべき壁が大きいというイメージがありましたが、研修などを受ければ現場に携われると聞いて弊社を志望しました。

面接では、現場で活躍している先輩社員と話す機会が多くありました。女性社員の活躍についても話を聞くことができたので、不安やギャップは早い段階で解消できました。就活の軸として「長く働き続けられる会社」ということを念頭に置いていました。設備工事は安全に水を供給したり、快適な空気環境を整えたりする大切な仕事

だと理解できました。なくならない仕事であり、必要とされ続ける仕事だと思いました。転勤がなく、社風や人間関係についても印象が良く、先輩たちと一緒に働きたいと思えました。

施工管理から施工図作成担当に

●北澤 三機工業株式会社の北澤です。入社して5年目まで施工管理を担い、その後3年間は設計部で主に着工前のゼネコンとのやり取り、打ち合わせなどを経験し、今は技術部に復帰し施工管理を主に担当しています。今の現場は大型物件で、施工図を担当しています。入社動機は、大学で建築学科の設備分野を専攻していました。ごく自然にサブコンを受けることになり、2社受かりました。同じゼミのOBが弊社にいて、話を聞いていくうちに弊社への入社を決めました。

仕事にこんな工夫を

ジョブローテーションで自社を知る

●西川 次に、仕事をする上で常に心掛けていることや、業務効率化に向けて工夫していることなどについて伺います。

●岸田 自分が交渉することで、予算内に収められるように、過去の実績などを入念に調べています。そのほか、相手の立場に立って物事を考えるということに心掛けています。弊社の新入社員研修時にジョブローテーションという制度があり、調達課、総務会計課、営業部、積算課、工事部の5つの部署を経験しました。このお陰で、各部署の立場を理解することができたと思っています。営業



岸田 莉央

部は顧客と交渉する立場になりますが、調達課は調達先企業の営業担当者と交渉を行うという全く逆の立場になります。さまざまな業務を経験できるジョブローテーション制度はとても役立っていると思います。

●西川 ジョブローテーションを経験されている方はいらっしゃるでしょうか。

●伊藤 1年目は現場での実地研修を経験し、2年目以降に営業部研修で3か月から半年ほど積算業務などを経験し、見積りなどお金の面も理解した上で現場に戻るといった研修を行っています。

●西川 研修についてもう少しお聞きしましょう。

●西原 新入社員の研修自体は3、4か月でその期間にほぼ全部の部署を回ります。各部署の大体の仕事の雰囲気をつかんで、社員の顔を覚え仕事の流れをつかみました。総務の研修をした時に感じたのは、現場がスムーズに仕事をするためにさまざまなことを用意してもらっている実情を学びました。また社会人1年目で、電話の出方も分からない状態でしたので、対社員相手の電話の訓練で経験できたのは役立ちました。

●西川 緊張したこともあったのではないのでしょうか。

●岸田 人によっては口調が早く聞き取れないこともありました。

●坂本 現場は忙しいので、すぐに対応してくれと言われてることがあります。現場担当者は切羽詰まっているので、私の対応で不機嫌にさせることがないように気を遣っていました。

●西川 その辺りで工夫されていることなどあれば、教えてください。

現場の空気、明るく

●伊藤 現場で接する人は男性がほとんどでした。最初はすごくびくびくしながら現場に入りました。そこで、積極的にあいさつすることを始めました。そうすることで、自分を印象付けることができました。日々のコミュニケーションをしやすくして、相談もしやすくなりました。あいさつが現場の雰囲気づくりにもつながるので、それが現場全体の進ちよくなどにつながります。雰囲気が悪いと、うまくいかないことが生じたりします。職人さんが仕事をしやすい雰囲気をつくるのも私たちの仕事だと考えています。

●西川 雰囲気づくりは大事ですね。西原さんが現場で経験されたことを教えてください。

●西原 私は社内で初めて現場に出た女性です。良い意味でも悪い意味でも目立ちました。その場の空気感が明るくなったとよく言っていました。40～50歳代の



西原 阿沙美

職人さんから見ると、私は娘や子どものような感覚があったのだと思います。私が入ることが決まると、男性側は身構えたと聞きました。発言によっては、セクハラやパワハラになるから緊張していたようです。それでも私が現場に入ってすぐなじめて、空気が明るくなったから、女性の現場管理も良いし、雰囲気も良く変わったというお話を2年目、3年目の時に伺いました。前回の現場もフロア全部が男性という中に私が1人入りました。以前はみんな無言で帰ってきて、仕事も無言で終わっていました。私が「お帰りなさい」と言い出すと、男性同士でも「お疲れ」などという声やあいさつが増えました。

●西川 女性を迎えて変わった。そういう歴史的変革を遂げたということでしょうか。皆さんの会社はどうですか。

●北澤 弊社も関西の中では、私が現場担当の1人目です。

●西川 どのような感じでしたか。

●北澤 現場でいろんな方が話しかけてくれるので、とてもなじみやすかったと思います。

●西川 話しかけてくれたわけですか。

●北澤 コミュニケーションはとても取りやすく、仕事もやりやすいですね。

●西川 現場の雰囲気が柔らかくなったわけですね。大きな貢献です。次に仕事の中で工夫をして、とても貢献できた事例を紹介してください。

DXをより推進

●坂本 私は主にDX活用について現場担当者や新入社員に教育することが多いです。初心者や慣れない人が多いので、説明は初歩的なところから始めます。写真を多く使って、どれくらい作業効率が上がり自分の仕事が楽になるかについて説明し、理解を得た上でDX導入の話に入るようにしています。新入社員には「今教えている内容だけでなく、仕事で分からないことはすぐに聞き

なさいよ」と言っています。ほかに、メールは内容を全部確認してTOとCC、BCCをチェックするようになど、社会人として基本的なこともアドバイスしています。

●西川 DXは、働き方改革につながっていくと思います。会社として、どのような取り組みを行っているのでしょうか。

●坂本 現場担当者にiPadとiPhoneを配布し、両方を使って管理や仕事をしてもらっています。その2つは同じアプリを使用することができるので使い勝手が良いと思います。現場担当者は、その場ですぐ確認できるツールがあると便利だと感じているようです。昔は紙を持ち歩いていたようですが、今は会社を挙げてデジタル化を進めています。同業他社も同様の取り組みを進めていると思います。

●西川 皆さんの会社はどうですか。

●北澤 弊社もデジタル化を進めています。現場では、今まで紙面で行っていたことをアプリへと転換しています。仕事の進行状況や工事の進捗も状況もアプリで管理して、施工写真等の提出物作成や写真整理も社内でワークシェアしています。

●西川 最初、iPadを皆さんに支給して、アプリで入力するとなった時、現場を含む社員の皆さんに戸惑いなどはあったのでしょうか。

●坂本 最初に戸惑う人はいました。便利になるということを理解して、初めて使い始める人が多いのが実態です。iPadを配布するだけでなく、使い方の普及活動を同時に進めるべきだと思います。

●西川 現場はデジタル化が急速に進みつつあると聞きます。

●伊藤 デジタル端末の活用方法を教育した新入社員に、配属先現場のベテラン社員へ操作方法のレクチャーを急いでいます。

●西川 ベテラン社員のデジタル化への取り組みは浸透していますか。

●伊藤 DX関係の普及も担当しています。ここ1年は主にDX普及に動いていました。使ってくれる人はとても増えました。

●西川 効果も出てきましたか。

時間短縮効果にも貢献

●伊藤 アプリ開発企業の担当者に、会社へ来ていただいて、メリットをしっかりと説明してもらい、社員に実感してもらうことをここ1年で取り組みました。現場もメリットを感じてくれていると思います。労働時間短縮にもつながっていると感じます。導入して良かったと思っています。

●西川 ほかにも働き方改革のケースを伺いたいと思います。

●川本 私は営業職で、出張が多くありました。遠方のお客さんとの打ち合わせを、直接訪問するだけではなくWeb会議を活用することで移動時間を短縮できました。残業時間の削減にもつながっていると思います。

●西川 Web会議が普通になりましたよね。移動時間も以前より減っているのかもしれませんが。働き方改革は、労働時間短縮のメリットが一番大きいのでしょうか。

●岸田 弊社では現場に対し、支社から積極的に業務支援を行っています。大型現場の施工図を進める体制の構築のために、ベテラン社員が社内です施工図作成に従事しています。現場管理を行いながら、施工図面作成となると残業時間がかさみがちになりますが、そこはかなりの効果があるのではないかと思います。

変わるワーク・ライフ・バランス

連続有休制度で旅行も

●西川 労働時間短縮に一番大きいメリットがあると感じているようです。自らが働き方改革を行うことで、ワーク・ライフ・バランスはどう変化したのでしょうか。

●北澤 現場では、以前は土曜日も出勤していましたが、今は基本的に週休2日制になりました。土曜日が休みになると、1泊旅行などができるようになりました。

●伊藤 建設業界全体で4週8休を目指す取り組みが進んでいます。大きな現場や繁忙期には、難しい部分もありますが、以前よりとても休みやすくなりました。会社も有給休暇を取るよう声をかけてくれています。

●西川 それは大きいですね。これまで有給休暇が取りづらく、消化できない人が多かったと思いますが、そこが変わってきたということですね。有給休暇取得は申請しやすくなったというのでしょうか。

●川本 そうですね。有休が取りやすい雰囲気は確かにあります。弊社では連続有休制度があり、連続で5日間の有休を取ることが義務付けられています。社員によっては連続3日と連続2日に分けるケースもあります。やはり義務付けていただくことで有休も取りやすくなりましたし、旅行も行きやすくなりました。

●西川 5日間連続。すごいですね。どう使いましたか。

●川本 コロナの5類移行後は、旅行に出かけました。



川本 菜月

請求電子化で時間ロス削減

●岸田 弊社では10月から「ビルワン」というシステムを導入し、請求書を電子で受け取る形となりました。今まで請求書は郵便で受け取り、紙ベースで保管していましたが、電子化によりその分の時間のロスがなくなりました。導入からまだ2か月なので、慣れるのに時間がかかっています。現在、大きく労働時間を短縮するところまでは至っていませんが、電子受領で郵送時間のロスがなくなったお陰で、これまでより早く買掛処理に着手できることは大きなメリットだと思います。

●西川 仕事が早く進むようになりますね。それが進むことで、生活はどう変わるとおっしゃいますか。

●岸田 まだ大幅には変わっていませんが、どうしても月の後半に多かった残業が少し軽減されたと感じています。

●西川 西原さんは今、育休などを経験されていると思います。会社で取り組んでいる働き方改革は何かあるのでしょうか。

育休制度が拡充

●西原 今、育児休業中で、4月に子どもを保育園に入れる予定です。復帰後は労働時間短縮勤務で復帰しようと思っています。現場で働く女性社員は私が初めてで、産休・育休を取得したのも会社で私が2人目です。最初に取られた方は内勤者で、フルで復帰されました。時短勤務は会社として経験がないのですが、私が初めてになります。

●西川 坂本さんはどうですか。ライフ・スタイルは変わりましたか。

●坂本 弊社も育児休業はあり、私は2人子どもを育てています。私の場合は当時、育休は1年間だけでした。今は制度が変わって、最長2歳まで取れます。やはり西原さんのように子どもを預ける保育園が見つからないことが多いのが実態で、1年で復帰できる人が少なく、2年とい

うのは子育ての実情に合わせた大きい制度の変更だったと思います。

●西川 西原さんもおっしゃった時短勤務の制度もあるのでしょうか。

●坂本 時短勤務は、子どもが小学校3年生になるまで取れる制度があります。

●西川 実際、取られている方がいるわけですね。

●坂本 女性は100%取っています。弊社の2022年(令和4年)の育児休業実績ですが男性は20.9%が取っています。

●西川 男性も取っているのですね。

●坂本 取っています。

●西川 それはすごい。

●坂本 取得者は完全に復帰しています。それは制度が整っているからだと思います。男性も短い人で1週間、長くて1か月取った方もいます。5年くらい前はゼロでしたが、ここ最近では増えたと思います。

●西川 増えた要因は何でしょうか。

●坂本 おそらく男性社員も休みやすくなったということと、上司の理解が進んだことだと思います。制度が変わり、社員の申し出をきちんと受けるようになったことも大きいと感じています。

●西川 環境や雰囲気は大事ですよ。男性も今、取りましようと言われていますが、なかなか取れない方が非常に多い中、20%はすごいなと思いました。休んだ人の仕事は周りの人がカバーするわけですか。

●坂本 そうですね。みんなでカバーしています。今はリモートでもサポートすることができます。例えば図面作成ですが現場が忙しいのであれば、他部署が支援できる環境も整ってきています。こうした変化が育休を支える大きな要因なのかもしれません。

●西川 そこはすごく大きいですよ。川本さんのお話でも、Web会議で移動することなく仕事ができる環境になってきたという、大きな効果だと思います。伊藤さんの

会社では、育児休業は取りやすい雰囲気ですか。

●伊藤 現場で働いている人で、お子さんが生まれた方はまだいません。事務系では、出産して育児休暇を取って時短勤務している方もいます。結婚特別休暇が2週間ほどあって、新婚旅行に行ったり、時間を有効活用できたりする制度があります。活用できる休暇が結構充実してきたので、制度自体は生活するのに困らない程度に整っていると思います。

●西川 取りやすい雰囲気でもありますか。

休暇が取りやすい雰囲気

●伊藤 取りやすいです。現場に出ている男性は調整も難しく、なかなか取りにくいと思います。それでも現場が完成すると、次の現場が始まるまでの間に長期休暇を取っています。

●西川 それはいいですね。

●伊藤 私も現場が終わった後、2週間ぐらい休みをもらって、リフレッシュしています。その都度、上司と調整しています。会社全体として休みは取りやすい雰囲気だと思います。

●西川 それはすごいですね。休みと残業なしの労働時間短縮は非常にワーク・ライフ・バランスに影響してくることですよ。

●伊藤 生産支援室が新しくできました。そこに所属しているのは今、女性社員だけです。もともと現場で活躍していた人も産休や育休が終わってから復職しやすい部署として運用することも可能です。調整しながら仕事ができるので、働きやすい仕組みを実現する部署ができたことはとてもいいことだと思います。

●西川 女性に配慮されている感じですよ。

●伊藤 現場は朝早くから動き出すのですが、今は支援業務などを担当しているの、朝に余裕が生まれて、とても働きやすくなったと感じています。



●北澤 弊社も主に事務系の方で、結婚して出産した方は育児休暇を100%取得しています。そして時短勤務で復職されています。

●西川 時短勤務の方の仕事は皆さんでカバーしているのですか。

●北澤 そうですね。

●西川 何か負担になっているということはないでしょうか。どうですか。

●北澤 所属してきた部署で時短の方がいたことがほとんどなかったのですが、基本的には負担増はないと思います。

●西川 うまく振り分けている感じですかね。

●北澤 そうですね。

●西川 残業は今、どんな感じですか。

●北澤 法制度上、建設業の残業は2024年度(令和6年度)から厳格化されますね。すでに残業時間は減っていると思います。上司の残業時間の照査も毎日行うようになりました。

●西川 毎日チェックしてもらうことで、すごく残業に対する意識は根付きますよね。皆さんも残業を減らしているという思いがあるわけですね。

●北澤 ありますね。

働きやすい職場であるために

制度の充実を

●西川 ワーク・ライフ・バランスはこれから長く働く上で必要だと思います。それをより進めるために必要なポイントもあるのではないのでしょうか。「ここが変わるともっと良くなる」という意見があれば伺いたいです。

●岸田 社内で育休を取っている方はいます。ですが、女性社員が増えてきているので、もう少し制度を充実していただければうれしいです。子どもの看護休暇を有給休暇とは別で取得できる制度が充実すると、子どもの発熱時に早い対応ができたり、早退しやすかったりするのではないかと思います。

●西川 育休制度はあっても、時短制度などがまだ不十分ということですか。

●岸田 時短制度はあり、実際に活用されている方もいらっしゃいます。

●西川 男性社員が育休を取得されるケースはありますか。

●岸田 大阪支社では今のところありませんが、ほかの支社・支店でそういう事例はあります。子どもが産まれたタイミングで取得できる休暇制度に育休制度があると説明を受けていますが、現場勤務の場合、実際に取得が難しいと思います。

現場の休日取得を加速

●西川 現場の方は、休日を取得しようとすると、まとめて取得する方法以外はないのですか。

●伊藤 現場勤務になると、その人が現場を熟知している分、工事期間中に離脱することがかなり難しくなります。

●西川 川本さんの会社でも同じ状況ですか。

●川本 内勤と比べると、やはり現場勤務は難しいです。そもそも有給休暇の取得が難しい上に、現場の土日出勤で発生する振替休日を消費しなければいけないので大変です。

●西川 現場の休日取得が難しいのは、工期の制約も要因ですか。

●北澤 そういった要因もありますし、現場では毎週、定例の打ち合わせが開かれるので、どうしても休めない曜日が発生します。

●西川 打ち合わせの開催日をずらすのは難しいですか。

●坂本 定例打ち合わせは建築や設備、そのほか各業者が集まって、決まった曜日に毎週開かれます。週に1回定期的に開催するので「定例」と呼ばれています。

●西川 他業者を含めて現場の全員が定例の開催日に必ず合わせなければいけないのですか。

●坂本 常に足並みをそろえていなければいけないので、例えば1週間も休むと現場が回らなくなります。

●西川 現場の休日確保が難しい理由がよく分かりました。そんな状況でも「ここを工夫すれば改善できるのでは」という意見はありますか。





北澤 紗央

●北澤 週初めの月曜日が、週末の金曜日のどちらかで休める環境になれば良いと思います。3連休で休みやすくなって、少しでも休日を取ろうという気持ちが芽生えてくると思います。

●西川 そうなると、定例を開催する曜日も関係しますね。業者間で足並みをそろえないといけないので、開催日の決定でハードルが高そうです。そういう意味で「働き方改革を今一度見直しましょう」という、業界全体の問題提起にもつながります。毎月・毎週の定例の回数は決まっていますか。

●伊藤 1週間の各曜日で複数の打ち合わせが入っています。

●坂本 業務を中断して打ち合わせに出席し、打ち合わせ後に業務を再開するサイクルなので、打ち合わせの回数が削減できれば、業務効率が向上すると思います。

●伊藤 打ち合わせの種類が多く、それに向けた資料作成に追われ、仕事の幅が広がり過ぎているように思います。

●北澤 毎回、内勤から現場に向かう人が決まっているので、その人は必ず出席しなければいけません。

●伊藤 その人だけが現場を熟知しているので、打ち合わせに出ざるを得ないのです。

●西川 それだけ綿密に打ち合わせをしないと現場が進まないという、難しい課題ですね。現場で働き方改革を進めようとしても、定例のように足並みをそろえる必要があるから、一足飛びにはいかないのですね。

育休からの復職で支援策は

良いロールモデル構築へ

●西川 そのほかの社内の働き方改革でお話を進めます。育休を取得中の西原さんは、これから復職するにあたって不安はありますか。

●西原 正直言って不安です。産休に入る前まで毎日遅くまでフル稼働で働いてきたので、復帰後の就労環境が想像できません。時短での復帰を予定していますが、不安はあります。「はたして時短で退勤できるのか」「子どもが熱を出しても帰宅できるのか」とか、とにかく未知の部分が多くありませんね。後輩の女性社員が、私が仕事と育児の両立している姿を見て、安心してほしいと思っています。

●西川 良いロールモデルになりたいですね。

●西原 私自身も会社も現場に復帰する経験がないので、今は「とりあえずトライしてみよう」という段階です。

●西川 西原さんの理想では、復職後はどんな働き方を希望しますか。

●西原 産休・育休後も働きやすい環境づくりを希望します。また、職場の方々にも理解いただき、退勤しやすい雰囲気さえあれば良いと思っています。

●西川 そこが重要なポイントですね。坂本さんの会社ではどんな雰囲気ですか。

男女共に柔軟に働けるサポート部署

●坂本 私が所属している現場サポート部に、西原さんと同じく現場勤務をしていた方で妊娠・出産の時期にいる女性社員が2人異動してきています。彼女たちは今、現場サポート部で時短勤務の範囲でサポート役として現場に関わる業務をしています。現場専属の勤務形態だと、確実に定時で帰宅できなくなるため、業務の負担を少なくし柔軟に働けるように、産休・育休前後の所属を現場サポート部にするような取り組みを進めています。

●西原 現場に立つのではなく、あくまで間接的にサポート役として現場と関わるということですか。

●坂本 はい。その立ち位置で働いた方が今後の自分のためになるはずですよ。

●伊藤 現場に出ると、どうしても現場担当者の一人として頭数に入れられるので、帰ろうと思っても帰りづらくなりますよね。

●坂本 西原さんの場合も、復帰後はサポート役として



坂本 明子

現場と関わるのがベストだと思います。育児が落ち着いて戻れそうな環境になれば、現場に復帰してもいいと思います。最初に現場復帰してしまうと途中で変更することも難しいので、あらかじめ「サポート役で働きたい」と会社に伝えておくのもいいですね。

- 伊藤 絶対、会社に提案した方がいいと思いますよ。
- 坂本 そうです。最初に「自分はこう働きたいです」と上司に伝えれば、たぶん分かってもらえると思います。今まで前例がない分、伝えることでより分かってもらいやすいのかもしれないね。
- 伊藤 サポート部のような部署って、最近は各社で立ち上がりつつありますよね。
- 坂本 これを機に、西原さんの力でサポート部を立ち上げたらいいと思います。
- 西原 そうですね。提案してみます。「他社はやっているらしいですよ」「それが今は主流らしいですよ」って言ってみます。
- 西川 サポート部を設置する会社が増えつつあるんですね。
- 伊藤 弊社でもそのような形で男女共に活用しています。
- 西川 サポート部のような部署があれば、男性も育休を取りやすくなりますね。そんな部署があるというのは、良いお話が聞きましたね。西原さんがロールモデルとして部署を立ち上げてしまうぐらいの意気込みでいいかもしれませんね。どうでしょう。西原さんは、その話を進めていけそうですか。
- 西原 はい。本当にこのお話を社内で伝えてみたいと感じました。部署の立ち上げまで時間が掛かるかもしれませんが、私が今の部署で産休前にやっていた、現場の間接サポート業務をこのまま継続していく方向でいければと思います。
- 西川 川本さんの会社さんはどうですか。
- 川本 弊社でも現場をサポートする工事管理部という

部署が立ち上がりました。ただ他社と比べると会社全体で女性社員が少なく、現場管理を担う女性社員も1人しかいませんし、その人も育休や産休をまだ取得していません。一方で最近、現場勤務の男性社員が育休を取得しました。一時的に現場から工事管理部に異動した上で、育休を取得しています。

- 西川 工事管理部の仕事内容を教えてください。
- 川本 完成図書や工事書類の作成、品質管理、工事完了後の完成検査などを担当している部署です。
- 西川 女性社員にとっても会社にそういう部署があれば、復職後にしばらく調整が取れるということですね。
- 川本 そのとおりです。
- 西川 岸田さんもそういう働き方があればいいと思いますか。
- 岸田 はい。現在、現場に出ている同期の女性社員も、実際に育休を取得する時、そのような部署に異動できたら、もっと働きやすくなると思いました。
- 西川 社員が柔軟に異動できるような制度の創設も、今後の課題になりそうですね。
- 岸田 そうですね。現場の計画書や施工要領書の作成などを行う施工支援室という部署があるので、そこに異動するのも一つの方法かと思います。
- 西川 その部署が産休・育休前後の適職だということですね。
- 岸田 施工支援室は女性社員の割合も高いので、そういう働き方も必要だと感じました。
- 西川 北澤さんはどうですか。
- 北澤 弊社の場合、関西以外の支社に、皆さんのお話にあったサポート部署に相当する工務部という部署があります。でも関西の事業所には工務部がなく、事務職の社員が通常業務と並行して、現場サポート業務を担っています。会社として将来的に分業化したいと考えているようなのですが、まだ実現できていないのが現状です(2024年度(令和6年度)よりサポート部署が新設されました)。
- 西川 分業化していないと、育休後の復職でどんな仕事に就くのか不安要素になりますよね。そこが明確化されて不安が払しょくされると、業界を志望する若い人たちも増えるはずですよ。ですから、西原さんには頑張っただけでロールモデルになってほしいと思います。

業界全体で問題提起を

設計変更の対応がネックに

●西川 このほか、ワーク・ライフ・バランスを充実するために必要な、仕事の要改善ポイントについてご意見があればお願いします。

●伊藤 やはり現場の人の立場だと、工程の制約で休日を取得しづらいのが現状です。この課題を解決するためには、元請のゼネコンが主体になって、余裕を持たせた工程を考えてもらうことが一番の理想ですね。

●西川 先ほどの定例のように、自社だけでは対応できない部分が必然的に付随してきますね。岸田さんは現場の方々も休日を取得しやすくなると、どう変わっていくと思いますか。

●岸田 現場は定例などで休みを取りづらいので、その部分を少しでも工夫すれば、現場の方の心身の負担を軽減できて、より良い雰囲気現場運営を進められると思います。

●西川 そうですよ。坂本さんはどうお考えですか。

●坂本 一番大変なのは現場の方々です。弊社では内勤者がフロントローディングを行って現場をサポートしているのですが、途中で設計変更が入って工程に修正がかかることが多く、それだとフロントローディングの意味がなくなってしまうので困っています。その部分も業界全体で見直していく必要があります。

●伊藤 弊社でもちょうど元請のゼネコンと打ち合わせをしていて、サブコン側の要望という形で、実は話が上がっている最中です。「計画段階の間に仕様や工程を固めてほしい」などの要望を今まさに出そうとしています。

●坂本 計画段階でうまくかみ合えば、私たちもスケジュールを見越して作業を進められますが、現場の不確定要素によってすぐに計画が変わるので大変です。



伊藤 沙也香

●伊藤 私たちもそのたびに毎回、検討資料の作成に追われていて、時間ももたない状況が多々あります。進んでは戻って、また進んでは戻っての繰り返しです。

●坂本 この状態が続くと、せっかく分業しても、それぞれの部署で無駄な時間を多く抱えてしまいます。皆で一生懸命に考えてつくったものが、一からやり直しになるから大変です。

●西川 岸田さんの部署でも、見積もり金額の部分で関係するお話ですよ。

●岸田 当初の設計で工事がスタートしても、ほぼ確実に途中で変更が入ります。

●西川 途中変更となると対応が大変ですね。

●岸田 設計変更のたびに、納入仕様を差し替えるなど大変な部分が多いと思います。

●西川 やはり業界全体の課題に関係してきます。その中でも現場の働き方改革は最も根幹の部分にありますね。皆さんで何か、会社や業界に働きかけられそうなおことはありますか。

上司の意識改革が重要

●岸田 伊藤さんのお話にもあったように、元請のゼネコンが主体になって意識を変えていただかないと改善しない気がします。そうしないとサブコンが変わっていくのは難しいと考えています。今後、何かが変われば良いと思います。

●西川 具体的にどう変わってほしいですか。

●岸田 現場の負担が大きいのは業界で共通している課題なので、その部分を少しでも軽減して、余裕のある工期で効率良く現場を進めることができれば良いと思います。

●西川 工期も重要なポイントですね。西原さんはいかがですか。

●西原 やはり上司の方々の意識が変わらないといけません。現場に出ている私から見て、現場は常に忙しくて大変なのですが、実は無駄な時間がとても多いのです。例えば、職人の方々が作業中で私たちの手が空く時間帯に、iPadさえ使えば、その間に少しでも事務処理を進めることができます。こうやって今の時代に沿った働き方を率先して現場に取り入れた方が良いでしょう。やはり上司に「夜遅くまでだらだら働かずに、メリハリを付けて今日は帰る」と意識を改めて、業界が変わっていけばいいと思います。

●西川 現場の労働時間を減らす意識を浸透させていく必要がありますね。

●西原 「このままでは大変なことになるから残業時間を減らしていこう」という意識は、ここ3年の間に社内で芽生え始めていると思います。社内改革も始まっていて、社長を筆頭に幹部が「ノー残業デーの日は帰宅しよう」と呼びかけています。

●西川 坂本さんの会社では働き方改革が進んでいるようですが、さらに変わってほしい部分はありますか。

書類様式統一で効率化を

●坂本 作成しなければいけない書類が多過ぎることですね。内勤も現場も、とにかく書類が膨大な量なので、業界で統一すべきだと常々思っています。現場ごとに様式が違ったりするので、作成を求められる書類をその都度用意していますが、ひな形のような書類を目的別に統一して、あらかじめ作成しておけば、各社も書類作成で悩むことが少なくなると思います。現在は、これから作成する書類が合っているのか、現場へ逐一確認を取らなければいけないので手間が掛かっています。

●伊藤 あらかじめ統一しておいた方が、確認も楽になりますよね。

●坂本 本当にそのとおり。現場に確認を取っていても現場内で変更があると再度作成するという、無駄な時間が発生してしまいます。それが統一できて、さらに書類の数を減らすことができれば、スムーズになると思います。

●西川 iPadが普及しているのに、いまだに紙ベースに依存しているという矛盾する部分もありますね。業界全体の課題になりますね。伊藤さんはどうですか。

女性が働きやすい制度に見直しへ

●伊藤 弊社は他社と比べて、必要最低限で制度面は整っていると思います。ただ女性社員の割合が増えつつあって、私の世代ぐらいから女性が毎年入社するようになりました。今年は3人ほど女性が増えて、来年もまた入社してくる予定なので、現在は既存の制度をもう一度見直すタイミングにきているように思います。これから先、結婚する人もさらに増えてくるはずなので、制度を再検討してほしいと思います。

●西川 どんな制度が足りていないと感じますか。

●伊藤 弊社には産休・育休からの復職の配属先として、生産支援室という部署で活躍できる働き方もあります。この業界では、他業界以上に職務経験者を人材として重宝する傾向があります。会社としても、その人に復職して残ってもらった方が絶対にありがたいですから。



そういう意味で復職しやすい業界だと思うので、制度面で育休や産休、時短勤務などをより充実した内容にしてもらえたらいいと思います。そうすれば、会社の福利厚生を重視している若い人たちにも業界をPRできるはずです。

●西川 時短勤務の時間帯を明確にしているだけでも違いますよね。産休・育休から復職までのシナリオを可視化できれば、それだけでその会社の働き方をイメージしやすいですね。

●伊藤 この業界で長く働きたいと思う人がそういうのを見たら、安心して入社できるのではと思います。

●西川 そうですよね。北澤さんはいかがですか。先ほど関西に復職の部署がないというお話がありました。

●北澤 関西以外では、現場に出ている女性が結婚して出産すると、やはり多くの方が内勤で復職を希望します。もともと設計部にいた人は、もう一度設計部に戻れるのですが、現場にいた人の場合、例えば設計部に復職すると、時短勤務で一から仕事を覚えなければいけないのが大変です。そういうサポート的な部署があると、復職しやすくなると思います。

●西川 今回のお話を聞いて参考になりましたよね。ありがとうございます。

業界を目指す皆さんへ

もっと働きやすい環境になる

●西川 では、この業界を希望する若い方々に向けて、皆さんから業界の魅力や働きがいなどをPRしていただけますか。

●川本 設備業界は社会インフラを支える重要な役割を果たしています。今後、設備業界で働く女性が今以上に活躍していくので、ぜひこの業界と一緒に豊かな社会づくりに貢献していきましょう。

●岸田 この業界では2024年(令和6年)4月から罰則付き時間外労働の上限規制が始まり、それによって今後はさらに労働環境の改善が進んで、安心して働ける環境が整っていくと思われます。若い世代で、ものづくりに興味のある方、一緒に建設業界を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

●西原 私は入社6年目ですが、徐々に会社の理解が進み、見違えるほど働きやすくなりました。今後、もっと職場環境の改善が進むはずですし、設備業界はニーズが絶えることのない安定した業種です。私にとっても、やりがいの大きな仕事で、生まれ変わってもまた設備業界で楽しく働きたいと思っています。皆さんと一緒に働けたらいいなと思います。

入社後も幅広くスキルアップが可能

●坂本 設備業界は一見、「現場」「技術者」というイメージが強いですが、事務職でも活躍できる場所が実はたくさんあります。私は事務職ですが、図面を勉強してCADを取り扱えるようになりました。技術的なことを全く知らなくても、会社にながら勉強できるし、事務職ができる仕事はいくらでもあります。「自分は事務職だから」と遠慮する必要はないので、この世界に一度飛び込んでみませんか。一緒に頑張りましょう。

●伊藤 業界全体ではまだ課題が多いのですが、それ以上にやりがいや価値が大きく、なくなるとはいけない仕事だと思って、私も誇りを持って働いています。時代の流れとともに挑戦し続けるという点で、とても魅力的な仕事ですし、坂本さんのお話にあったように、仕事の合間でも多くのことを学べるチャンスがあります。そこから資格取得に挑戦し、自分自身の市場価値を高められることができます。昔に比べると確実に働きやすい職場環境になっているので、この座談会を機に、今後の建設業の

魅力をどんどん発信していきたいと思っております。

●北澤 今は業界全体でかつてのマイナスイメージを払しょくし、課題の解決に向かって頑張っている途中なので、今後ますます良い方向に向かうと思っております。何よりも、自分がつくったものが形になって残るという意味で、大きな達成感が得られる仕事なので、ぜひ皆さんにも仕事の楽しさを味わってほしいです。

●西川 ありがとうございます。皆さんのお話を聞いていると、福利厚生も取得しやすく、業界が女性にとって働きやすい環境に進化しているイメージが描けました。今後さらに女性が活躍できる業界になってほしいと感じました。長時間にわたり、ありがとうございました。



西川 紀子

座談会 2 [空調・衛生部会]

未来社会を支える空調衛生工事業を探る



岩見 康秀

新菱冷熱工業(株) 大阪支社
設計部設計三課
専任課長

辻 晴亮

三機工業(株) 関西支社
設計1部設計2課長

平野 匠

(株)西原衛生工業所 大阪本店
技術部設計・積算グループ
担当課長

山口 淳志

高砂熱学工業(株) 関西支店
設計部担当課長

瀧口 佳典

三機工業(株) 関西支社
設計1部設計1課
課長補佐

杉田 英人

須賀工業(株) 大阪支社
設計部部長

司会

若林 尚史

若林設備工業(株)
取締役会長

2023年(令和5年)11月27日
シティプラザ大阪にて

設備工事業界の仕事とその魅力は

人の目に触れにくい設備施設

●若林 座談会のテーマは「未来社会を支える空調衛生工事業を探る」です。空調衛生工事業は、快適な空間を創出し、地球環境を保全する役割を担っています。この重要な役割を遂行するためには、優れた技術を開発し、その技術を生かせる担い手を確保していかなければなりません。私たちが感じている設備工事業界の魅力や仕事に対する誇りを再認識し、若い世代に関心を持ってもらえる業界づくりをどう進めていくのか。これが話し合いの一つのポイントです。

もう一つはICTの活用やカーボンニュートラル実現への貢献など、市場環境の変化に対応し、未来社会を実現するための取り組みが急務となっています。技術者として、今後の展望も語り合いたいと思います。記念誌の冒頭、瀧口さんにつくられたプロローグに、子どもの目線から、父親の仕事は目立たないが、日常生活を支える大事な仕事をしているということをおっしゃっている。この「思い」はどこにあるのでしょうか。自己紹介も兼ねてお話ししていただけますか。

●瀧口 大学時代は、まったく設備工事業界とは無縁なところにいました。何も知らずにこの業界に入り、何年もこの業界にお世話になっていますが、今振り返ってみると、我々の仕事は人の目に触れるところにあるのに、なかなか関心を持ってもらえない。そんな思いから、子どもたちにお父さんの仕事は目立つ仕事ではないが、社会にとって大切な仕事だと話すことから始まるのだと思います。

建築設備は多くの施設が天井やバックヤードの中にある、人の目に触れることはあまりありません。ただ、よく観察すると、設備機器や配管などをあちらこちらで見ることができます。我々の仕事は人の生活に密接しているからです。それを多くの人に感じてもらえれば、設備業界の認知が広がるのではないかと思います。

大学では原子力を勉強しました。畑違いの分野から、この業界に就職した動機は、大学の先生や先輩からの誘いでした。一期上の先輩が会社にいるのですが、その先輩に「どうや」と言われ、入社しました。入社後、工事現場と設計の部門を行ったり来たりし、現在は設計に携わっています。

●平野 入社動機ですが、私も地味な存在である設備工事業界のことは、ほとんど知りませんでした。ただ、親

族が設備工事業界に携わっていて、こんな業界もあるのかという程度でした。なぜ、今の会社に入社したかということ、学校で教鞭を執っていた教授が偶然、弊社の元社員だったという縁で紹介されました。弊社のコーポレートスローガンは「水の活用を通じて社会に貢献する」ですが、社会貢献もできる仕事なのかと思ひ、それも面白そうだという気持ちで入社しました。

入社は2000年(平成12年)で、ミレニアム入社です。もう死語になりつつありますが、ロストジェネレーション世代と言われていています。入社後は現場あり、出向あり、転勤ありと、さまざまな経験をさせてもらいました。今年で入社24年目になりますが、現在技術部の設計・積算グループで設計を担当しています。

●杉田 建築関係の仕事をしたと思い、建築学科に進学しました。ただ、建築はいろいろな職種があり、いざ就職となった時に、当時の担当教授に建物をつくる段階から完成後の維持、改修・更新まで、建物がある限り深く関わっていけるのが設備工事業界で、こうした業界も検討してみてもどうかと言われ、正直それも面白いかと思ひ、設備工事業界を選びました。1984年(昭和59年)のことですから、ずいぶん前のことです。

入社後数年、施工部門の経験がありますが、大半は設計・積算部門で、特に設計部門が長く、現在も設計部に在籍しています。担当した案件は一般事務所をはじめ、病院、学校、工場など、各種施設を経験させてもらいました。これまで携わった案件で印象深いのは、兵庫県・有馬温泉にある老舗旅館です。改修工事だったのですが、単に機能を満足すれば良いということではなく、お客様の希望にどう対応し、満足してもらえるかということを考えるような仕事でした。

「環境」に積極的に取り組む業界

●岩見 大学は建設工学部に籍を置いていましたが、正直あまり勉強はせず、就職も直前まで真剣に考えていませんでした。それで担当教授の推薦をもらいに行くと、空調工事業界の会社を推薦していただき、入社しました。その時思ったのは、学生時代、熱心に勉強しなかったので、今まで学んだことを生かすより、比較的新しい業界と言われていた空調業界に入り、いろいろなチャレンジを試みよう。自分でもそうした納得というか、気持ちとしては了解して、今の会社に入社しました。

入社後、主に設計の仕事に従事し、途中何年か現場にも常駐しました。現在、担当しているのが、大阪駅前の「うめきた2期地区開発プロジェクト(うめきた2期)」で、

地域冷暖房のプラントの工事に携わっています。現場に週2回程度常駐し、現場と設計事務所の橋渡し役的な仕事をしています。

●**山口** 1994年(平成6年)入社で、もうすぐ在籍30年になります。入社後5年程度、現場で施工管理を担当しましたが、それ以降は設計部門にいます。昨年まで約10年間、東京で勤務し、その間は設計というよりも、事業開発のような仕事を担当し、新しい業務の開拓をしていました。昨年大阪に戻り、設計業務を担当しています。

入社動機を思い返してみると、大学では建築学科を専攻し、デザインや都市計画の仕事をしたと考えていました。しかし、デザインは才能が求められ、周囲の優秀な人を見ていると、自分は難しいかなと。そんな思いを抱いていたところ、建築設備のゼミがあり、その授業を聞くうちに、設備業界も面白いと思うようになりました。どうせ設備工事業に進むのであれば、ゼネコンではなく、サブコンでしっかりと設備をやっている会社に行った方がより面白いのではと考え、教授に推薦されて今の会社に入社しました。

ゼネコンは建築的には華やかな部分もありますが、設備業界できちんとシステムに携わって、新しいものをつくるのは非常に楽しいものです。今の会社を選んで良かったと思っています。

●**辻** 大学の専攻は機械工学科だったので、就職先として当初メーカーを希望していました。当時「環境」という言葉がキーワードになっていて、いろいろな会社のパンフレットを見ていると、設備工事業界が「環境」に力を入れていると、紹介されていました。それで興味を持ち、就職担当の先生に相談したところ、会社を紹介され、この業界に入りました。このため、建築業界のことは全く知らずに飛び込んでしまい、入社してから「こういう業界だったのか」と、知りました。

当初、なぜ、この業界に入ってしまったのかと悩む時期もありましたが、がむしゃらに仕事をし、今に至っています。1994年(平成6年)入社で、これまで大半が設計業務に携わってきました。現場にも6年ほど出ていましたが、一般ビルなどの設計が多く、ここ約10年は工場の設計を中心に仕事をしています。

設備工事業の特徴や重要性は

快適な空間をつくり出す面白さ

●**若林** 本題に移ります。まず設備工事業の重要性あるいは特徴を伺います。日頃感じている設備機器や設備設計、施工の重要性や、人々の活動や生活を守るライフラインを担っているというやりがいや誇りについて、お聞きしたいと思います。

●**辻** 建築設備は、建物用途ごとにいろんな要求があります。その要求をいかに聞き出し、それを把握した上で、どんな提案をするのかというのが非常に大事だと感じています。建築設備は、壁や天井、床などに隠れ、ほとんど見せないように施工されています。ただ、感じることはできる。いわゆる人々がその空間にいて快適であれば、それは建築設備のお陰だと。逆に快適でないと不満が出ます。いかに不満が出ないように施工できるかが、我々の使命かもしれません。快適な空間のありがたさを感じてもらうことが、建築設備の役割ではないでしょうか。

●**若林** 今は快適な空間が当たり前になってしまい、皆さんまひしています。寒い時に暖かい空間があり、暑い時には涼が得られる空間がある。これが当たり前になっています。

●**辻** 快適性を実現するのが当たり前になり過ぎて、ありがたさを感じ取れない業界になっている気もします。

●**若林** 空調機が壊れると、すぐ修理に来てほしいと苦情がきます。例えば壁や床が破損しても、2、3日待ってもらえますが、設備はそうはいきません。それが宿命で、我々の仕事はお盆も正月もなしに働かなければならない因果な商売と言えます。

●**山口** 建物はある意味、雨風をしのげる“箱”をつくるということ。設備はその中の快適性を求めていくもの



山口 淳志

です。快適性はいろいろ捉え方があり、一般ビルであれば温度調整とかを指すのかもしれませんが、産業用の工場ではその空調環境が整っていないと、製品そのものもつくれないこともあります。温湿度の管理やクリーン度などを、コントロールしていく。そうした快適性を超えた精緻な空間管理を行うのが、設備工事業の面白い部分ではないでしょうか。

半導体工場や病院などのクリーンルーム、さらに研究施設などは、温湿度環境が非常に重要になります。こうした空間管理は一般の人にはあまり見えないところですが、そこを知ってもらくと、この業界への理解も広がるのではないかと思います。

地球環境に優しい地域冷暖房事業

●若林 岩見さんは地域冷暖房の仕事に携わっていますが、何か感じられることはありますか。

●岩見 地域冷暖房事業は、街全体を効率的に冷暖房する地球環境に非常に優しい事業です。個別で熱源設備を設置する場合と、地域冷暖房事業などで集中的に熱源を供給する場合とでは、いろいろな面で異なります。例えばイニシャルコスト。地域冷暖房事業はイニシャルコストが高くなるケースが多いのですが、地球環境のことを考えると、非常に効率的で二酸化炭素(CO₂)の排出量も少ない。このため、東京都などの自治体は条例で導入検討の義務化をすることにより、事業の推進を後押ししています。

省エネルギーの取り組みは経済性だけではなく、お金の代えられない部分があります。脱炭素が昨今、話題になっていますが、イニシャルコストは多少高くなりますが、省エネを目指して街づくりを進める視点は、今後ますます重要になります。設備工事業界は、もっと業界全体として地球環境に役立つような提言をするなど、重要な役割を担っている業界であることをPRし、貢献すべきだと思います。

●若林 ちなみに、現在携わっている「うめきた2期」の地域冷暖房のエリアと規模はどのくらいですか。

●岩見 梅田北の再開発地区のすべてが対象です。総面積が約4.6haに及び日本でも有数の大規模な施設となります。この空調を個別の建物ごとに行えば、フロンの問題なども出てくる。地域冷暖房にすることで、エネルギーの平準化に寄与でき、ランニングコストも抑えられる。イニシャルコストは、例えば地域配管の整備などのコスト増になりますが、ボイラーやチラーなどの熱源機器はトータルでは削減できるので、イニシャルコストも若干



岩見 康秀

増える程度に抑えられると思います。

●杉田 建築物は一品生産で、どれ一つ同じ建物がありません。建築物の計画、設計、施工、維持管理などの一連の流れの中で、私が担当している設計部門は割と早い段階でお客様の要望を聞き、それを酌み取って具現化していく。その作業には、必ず根拠付けが求められます。なぜ、こうした設備を採用し、こんな配置にするのかなど。同じ建物が一つとしてないように、設備もその建物の特徴やお客様の要望などで、どれ一つ同じものがない。そうした特異性が魅力ではないでしょうか。

建築物はいろんな業種が入り交じった中で、協力しながらつくり上げていく。この共同作業の面白さは、建築業界の大きな魅力の一つです。設備工事業は確かに目立つ職種ではありません。ただし、安全性や快適性、さらには衛生的な使用も含め、なくてはならない業種です。建築物の完成後も、空調や水回りなど、人々の活動や生活を支える重要な役割を担っている。我々は、そんな大切な仕事に携わっているという気持ちで日常業務に取り組んでいます。

●若林 先ほど、有馬温泉の老舗旅館の改修工事をされたと聞きました。この施設のメンテナンスも行っておられるのですか。有馬温泉には、金泉と銀泉という温泉があり、温泉の循環、ろ過もされているのですか。

●杉田 温泉施設には、一般にはない注意点があります。例えば熱交換機や配管の部材も、設置時よりも、それをどう維持管理していくかというのが難しい。このため、メンテナンスも日常から工事部隊がメーカーの協力も得て頻りに現地に行き、管理しています。温泉管理に我々が携わっていることを、一般の方々のご存じないかもしれませんが、実はこうした通常の建物とは違う建物に関与できることも、大変な仕事である反面、面白さを感じます。

ライフラインを守る重要な仕事

●平野 皆さんが言うように設備工事業界は地味な業界で、一般の方からみると、何をしているのかあまり分からないというのが本音でしょう。私も入社する前までそうでしたから。ただ、業界の中に入ってみると、ライフラインを守る重要性がいかに大切かということが分かりました。弊社は水回りの仕事を中心ですが、工事部隊は水漏れなどが発生すると、昼夜を問わず仕事をしています。電話が入れば、夜中でもすぐにお客様のところに駆けつけ、製品の製造や営業などに支障をきたさないよう補修・修理工事を行います。それだけお客様をはじめ、社会活動を支えている訳ですから、もう少し世の中にアピールしても良いのではないかと思います。

子どもが小さい頃、休日によく現場近くに連れて行き、「お父さんがこの建物をつくっている」と話をしました。あと、建物が完成した時も、わざわざ車で近くを通り、「あの建物はお父さんが計画した」とか言っていました。これはやっぱり自分の仕事に誇りを感じていたからで、今もその気持ちは変わっていません。ただ、もう子どもは大きくなり、建物を見に行くのに付き合ってくれませんが。

●若林 私も親父が誇れる仕事をしている姿を伝えるべく、幼い頃よりよく現場に連れて行ってました。瀧口さんは、設備工事業界の魅力をどうお考えですか。

●瀧口 設備工事業の仕事の重要性を考える時に、分かりやすいのが、災害発生時ではないでしょうか。災害が起きた際に、まず人命救助が優先されますが、その次にガスや水道、電気などのライフライン被害状況が調べられ、応急復旧工事となります。これらを建物に供給しているのが設備工事業界です。それを一般の方にもぜひ知ってほしい。

建設現場には、各工種の職長が集まる職長会があります。大工や鉄筋、内装、とび、左官など各工種の方々というんなタイミングで話し合い、順番にそれぞれの仕事をし、最終的に建築物をつくる。ここには一つのストーリーがあります。現場の運営や工程、安全管理などは当然、元請企業のゼネコンが中心になるのですが、ある現場に行った時、職長会をすごく大切にしているゼネコンの現場所長がいて、工程調整は職長会でほとんど決まっていました。そうなると、職長会で活発な議論が展開され、品質や工程だけでなく、おそろいのジャンパーもつくりました。あるホテルの建設現場だったのですが、〇〇ホテル工事職長会とネームの入ったジャンパーをみんなを着て作業していると、自然に一体感が生まれていました。

●若林 職長会をそんなに大切にしてくれるゼネコンの



瀧口 佳典

現場所長は、とてもありがたいですね。

●瀧口 あともう一つ面白いことがありました。13階建て程度のホテルの建設現場だったのですが、ゼネコンの現場所長の指示で壁面いっぱい電飾を行い、クリスマスツリーをつくって、地域の方々にお披露目しました。またある現場では最後に、職長会が日々の各工種の作業を約3～5分の映像にしてCDをつくり、作業員に配りました。そのCDを見ると多くの職人がいろいろな仕事しながら、一つのものに向かって自分の仕事を一つずつ積み上げていき、建物が完成するのがよく分かります。さらに、作業の面白さだけでなく、現場で働く人の格好良さも伝わってきました。

若い世代に選ばれる業界になるには

陰で支えるものを見せる機会を提供する

●若林 建設現場は基本的には、元請であるゼネコンが主導することになりますが、職長会も元請企業の言うことだけ聞き、そのとおりに行えば良いと言うのではなく、もっと職長会が能動的に機能していくべきだと思います。各職種の職長や作業員が同じジャンパーを着て作業すれば、その現場は絶対うまくいきます。現場で働く人の気持ちに一体感が生まれるかどうか、すごく大切だと思います。紹介してもらった現場は、たまたまホテルという一つのブランド名があって、まとまりやすかったのかもしれませんが。現場名を書いたジャンパーを着て作業してくれたら、施主もうれしいはず。若者が建設現場に対し、ちょっと期待を持ってくれそうな良いお話でした。

次のテーマは、今の話につながりますが、若い世代に選ばれる業界とは、どのような業界なのでしょう。社会

に貢献し、ライフラインを維持、発展していくには若い人材の確保が欠かせません。設備工事業界は今後、どのような取り組みが必要だと思いますか。

●**若林** 建築物をつくるのは技術的に難しく、技術者として一人前になるには、経験を積んでいくしかありません。私の若い頃は、先輩の背中を見て学ぶという時代でしたので、とにかくがむしゃらに仕事に打ち込んできました。しかし、時代は変わりました。昔のやり方を一方的に押しつけても、今は多分うまくいきません。ITも発達し、昔の技術もITを駆使して効率的に伝えやすい状況になっています。若手に対して、ITも使いながら分かりやすく教育していくことが重要になります。手取り足取りを過度にした教育は本人の自主性が育たないため、そのあたりのバランスを考慮しながら、我々も新しい意識を持って取り組んでいかなければなりません。

●**若林** 若い世代に対し、どんな思いをお持ちですか。

●**杉田** 建築物をつくる上で、資機材や各種システムなどはどんどん進化し、施工方法も時代とともに変化しています。その結果、施工方法は効率化され、製品も高精度化していきました。ただ、それとは別な思いとして、建築物はいつの時代も人々が使い、住んでみて初めてその価値が見いだされます。いくらきれいで、しゃれたものでも、私たちが常に追求しないといけないのは「人が使ってこそモノ」であることです。そこには違う価値観が求められます。人が見て、触れて魅力がある、あるいは興味を持てるというモノをつくりたいという思いが根底にないと、良いモノはつくれませんし、その仕事を続けていくのも難しいと思います。学生らが弊社にインターンシップに来ると、よく機械室を見せます。普段は見ることがない機械室の中を実際に見てもらい、その役割を説明します。実物の機械を目の前にして、肌感覚としてどう感じ取るのか。すごく興味を持ちましたと言ってくれる学生もいます。

もう一つ話をさせてもらうと、今の建物は人々が活動や生活をする上で、当たり前のように安全性や衛生的な環境が確保されています。ただ、こうした環境を提供するためには、各種の機械設備が裏にあります。その機械設備を見せると、初めて自分たちの生活がこうしたもので守られていることに気付きます。目に触れるものだけでなく、それを陰で支えるものまで思いをはせるようにもっていくことが大切だと思います。物事の裏にあるもの、機械設備などを見てもらい、感じてもらう機会を提供するのは我々の役割かもしれません。若い人が興味を持ってもらえるような活動に、もっと力を入れていく必要があると思います。



杉田 英人

温度分布などを「見える化」し役割示す

●**山口** 若い世代に選ばれる業界にするために、働き方改革や労働環境の改善が業界を挙げて進められています。週休2日制の導入や危険作業の解消に向けた安全対策の充実などは確かに必要で、どの業界も同じだと思います。その中で若者に選ばれる業界となると、やはり「仕事のやりがい」に尽きると思います。設備工事業界が社会に貢献でき、インフラを支える重要な業界といくら言っても、実際に仕事の中身が見えていないのでは、若い人たちには理解してもらえません。我々の業界をどう見せていくのか。ここが難しいのかと思います。今、ICTがいろんな形で使われています。例えば、この空間にも各種のセンサーを取り付けることで、部屋の温度分布を見える化できます。こうした技術を、まず見せていくことではないでしょうか。

部屋の中の1点空調ではこんな温度分布になり、2点空調にすればこんな温度分布になる。そういうことをまず見ってもらう。エネルギー消費も同時に見せる。その上で、こうした技術を誰が提供しているのか、こういう業界が整備しているのかということを知ってもらう。さらに、こんな空間を提供するためにはこういうシステムをつくれれば良いとか、新しいシステムを開発すれば、こんなことができるとか、若い人に興味を持ってもらえそうなことを積極的に発信していく。見えない空間を、どんどん見せていくことが、魅力のある産業につながるし、やりがいのある業界になっていくのではないのでしょうか。

●**若林** 山口さんは大学で建築関係学科を専攻され、ゼミは設備という珍しいケースです。建築学科で設備工事業界に就職される方は少ないと思います。大学は今、機械工学や電子工学などの学科が増えています。九州の久留米工業大学は以前、設備科があって、我が社にも何人か入社していましたが、今は、設備科は廃止されてしまいました。若者に興味を持ってもらうためにも、大学に設備科

などを増やすような活動も必要なのかもしれません。

●**山口** 先日、ある現場でコミッションングを行いました。コミッションングは、建物のオーナーやユーザーが求める要求性能を文書にまとめ、その要求どおりに企画・設計・建設され、適用されていることを検証する過程（プロセス）のことです。この性能検証には大学の先生も一緒に参加していただいたのですが、こうした機会に学生の方々にも入ってもらい、設備工事をぜひ見てもらってはどうでしょうか。同時にこうしたツールを通じ、設備料がどんどん増えると良いと思います。

●**若林** 設備料を増やすには、担当の先生が外部でどんどん活躍する場を提供することが重要です。学生たちにも何らかの形で設備工事に携わって、少しでも関わってもらえれば興味持ってくれるかもしれません。平野さんは、若い世代に選ばれる業界にするためには、どうすれば良いとお考えですか。

●**平野** インターンシップに来た学生や、弊社に入社した新入社員に、どうして我が社を選んだのか、あるいはどうして設備工事業界を選んだのかなどを質問したことがあります。その時間聞いた話ですが、設備工事業界のことを事前に勉強しようと思っても、ホームページなどしか情報がなく、あまり研究ができなかったと。では、なぜ弊社を選んだのかと聞くと、弊社の教育研修期間が7か月あったからと言っていました。

入社後すぐに社会人になるというのではなく、社会に出ていくための準備期間、つまり教育研修期間がきちんと用意されていたからだと言っていました。今の若者は失敗を極度に恐れる世代で、私たちの頃の「当たって砕ける」や「怒られて何ぼ」という感じではありません。社会に出て行くまでの準備期間を用意し、その期間にすべてが学べる訳ではありませんが、設備工事業界のこと、現場での仕事のことなどを、ある程度理解したあとで、仕事をしたいという声が多くありました。

我々の世代から見ると、「甘い」と思うのですが、今はそういう時代です。この現実を受け止め、きちんとした教育研修期間を設け、新入社員やインターンシップに来てくれた学生に、業界のことや、仕事のことを理解してもらうようにしなければなりません。なかなか難しいのですが、若い人たちに経験してもらう場を提供するのも一つの手かもしれません。

研修でこの業界の仕事を少しでも正しく理解してもらう。これは逆に思っていた仕事よりも辛いと感じることもあるかもしれません。でも、それをちゃんと肌で感じ取ってもらい、その後の業務に活かしてもらえれば離職率が多少減るかもしれません。教育研修は時間とお金がかか



平野 匠

りますが、若手を育てる仕組みが整備されていれば、その世代の友達や後輩にも伝わり、入職者が増えるかもしれません。地道な活動ですが、こうした活動を一つ一つ積み重ねていくことが大切だと思います。

むき出しの配管を見てそくぞくする人

●**瀧口** 人材を確保する上で、設備工事業はひと言で表現すると、こういう業界ですと言えれば分かりやすいかもしれませんが、なかなか良い言葉が見つかりません。このため、各設備工事会社が人の目に触れることを意識し、あらゆる面でPRすることが必要だと思います。看板や電車内の広告、コマーシャル、さらにはスポーツのユニホームなど、人の目に触れるところにどんどんPRしていく。会社名だけだと、仕事の中身まで説明するのは難しいとは思いますが、まずはこんな会社があるのかと知ってもらおう。その広告を見て「あれ、これ何」ということになれば、次の段階として、その会社は何をしている会社なのだろうか、となっていく。

今の若い世代が何に注目しているのかは正直よく分かりません。当社の新入社員に「どうして当社に入社したの」と聞くと、大半が大学の先生の紹介とか、そんな答えが返ってきます。この答えでは、どのような思いを持って当社に入社したのか分かりません。個人的な考えですが、やはり処遇や労働環境などをもっとオープンにしていた方が良いのではないかと思います。休暇取得率や福利厚生、社会への貢献度合いなどをホームページなどに積極的に掲載していく。あるいは建設現場の仕事は、どうしても暑さ、寒さによる辛い労働環境や、事故などによる危険なイメージを持つ人が多い。それを払しょくするような対策をどう行っているのか、働き方改革がここまで進んでいますということを、一般の人たちにも広く知ってもらうことが大切なのではないでしょうか。

●**辻** 工事現場の仮囲いを見ると、施工を行うゼネコン

の看板しか見当たりません。空調や電気、衛生設備もすべてゼネコンが施工していると思っている一般の人もいます。建物の完成後も天井や床、壁に設備施設は隠れるため、あまり人の目に触れることはありません。衛生陶器やエアコン、蛍光灯は目に入るでしょうが、それらをつくっているのは各メーカーで、我々がつくっている訳ではありません。配管などの設備も意匠の一部として、もっと見せる施設があっても良いのかなと思います。

子どもの頃、入院していた病院で、廊下の天井に配管がむき出しになっているのが見えて、ちょっとぞくぞくした感覚がありました。当時はそれが何なのか分かりませんでした。見せることで、何かを感じ取る人が出てきてくれるかもしれません。工場では、配管が縦横無尽に配置され、建物全体を覆っているものもあります。これを見て刺激を受ける人も結構いると聞きます。我々の設備も、意匠と一体になって見せるような提案をしても良いのではないかと思います。

●若林 最近、レストランや店舗で、天井を貼らずにダクトやレバー配管をそのまま見せる施設も出てきました。我々は設備屋です。当然見えていますが、一般の人も私は結構見るのではないかと思います。

●辻 確かに配管を見せる意匠にしたからと言っても、一般の人がどこまで関心を持って見てくれるの分かりませんが、そうでもない限り、我々の仕事の中身を理解してもらうのは難しい。学校の授業で、もっと設備工事業界がどのような仕事をし、どんな業界かを教えてもらえるようになれば良いのですが、それには我々がもっと活動しなければなりません。設備の研究室に入った学生はこの業界に入職してくれるかもしれませんが、それ以外の学生は先生の紹介などで入職するしかないというふうになってしまいます。

今後は入職後も大切です。この業界を去らずに定着してもらえよう。業界にしていくには、労働環境の整備が重要になります。学生数はこれからどんどん減少して



辻 晴亮

いきます。その一方で、我々の業務量は私が入職した時よりも増えています。ゼネコンから要求される書類も増えています。いろんなルールができ、それに対する書類が非常に増加している。先輩の背中を見て覚えろというのは若い人は付いてきてくれません。私たち自身が若い人に寄り添って一緒に成長する気持ちを持つことが大切なのではと感じています。

SDGsの方向性と業界の将来像は

省エネはコストを含めた最適な提案を

●若林 では、最後のテーマに入りたいと思います。業界が今後取り組むべきテーマとして、SDGsへの取り組みがあります。SDGsを実現するための方向性、あるいは設備工事業界の将来像をテーマでご意見を伺いたいと思います。SDGsは2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標で、17のゴール、169のターゲットから構成されます。例えば目標7「エネルギー」で、すべての人々が安価で信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保するということが掲げられています。これら以外でも私たちが関与する目標はずいぶん多いと思います。現在、私たちが改めて取り組むべきテーマと今後の展望について伺います。

●杉田 言い方が正しいのかどうか分かりませんが、SDGsを上手に滑り込ませている設備施設があるかという、まだ少ないというのが率直な感想です。設備工事業界と関係するものとしては、メインがエネルギー、それも再生エネルギーの利用になると思います。最近、太陽熱や地中熱の利用、風力発電などが話題になっていますが、これらのテーマは何十年も前からあるもので、重要なのはどう蓄えるのかだと聞いています。ソーラーや風力でつくった電気を貯める蓄電設備をどうしていくのか。この蓄電が肝で、これが上手にできれば、エネルギーのあり方が大きく変わると、何年も前から言われています。

蓄電に関する技術は着実に進化しています。先般、風力発電施設の資料を見させてもらいましたが、給湯関係であれば電気でも熱にして貯められるようです。転換して貯めることが比較的容易になるような方向に進んでいくと、資料にはありました。もし、電気を電気のまま貯めることが効率的にできれば、EV車に電気を貯め、それを

別の場所で転用するなど、さまざまな利用が可能になります。ただ、こうした動きが、我々の設備工事業界が関与する身近なところまで降りてきてないというのが実情ではないでしょうか。

太陽熱や地熱、風力などを利用する施設があるかと言われれば、どの再生エネルギーもすでに利用し、設備もあります。蓄電の設備もあります。ただ、大切なのはこれらの技術は日進月歩で進化していきますので、それに我々業界が対応できるかどうかということです。個人的には、いつでも対応が可能ないように勉強しておかなければいけないと思っています。

●若林 再生エネルギーの動きは大変重要です。事前に勉強し、備えておくことが確かに必要でしょう。これ以外でSDGsに関する取り組みを自社で行われていますか。

●杉田 当社では、配管のプレハブ加工を現在、自社工場で行っています。工場配管のユニットを組み立て、現場にそれを運搬し、現場作業をできるだけ少なくすることで現場施工時間の短縮や、安全性も確保できます。資材の無駄がなくなり、効率化という点でもメリットがあり、会社を挙げて推進しています。これによりSDGsでの認証を取得しています。

●岩見 SDGsの中でエネルギー消費という視点で考えると、熱源施設の役割が大きいのではと思っています。現在、ある地下街施設の改修工事で冷凍機のリニューアルを提案しています。空調設備は一般的に、機械設備でおおむね20年ぐらいでリニューアルする必要があると言われています。一方、建築自体のリニューアルはおおむね50年です。建物のライフサイクルコストを考えると、初期のインシヤル費用を50年間で計算すると大体3割を占めます。残りの7割が維持・修繕費となります。この中で最も大きいのがエネルギー費となります。冷凍機のリニューアル提案をなぜ行っているかということ、最近の機械は昔の機械に比べ非常に効率が上がっていること、さらには設置条件にもよりますが、いろいろなシステムの選択が

可能で最も効率的なシステムを選べることがあります。

オーナーの方は設備施設の知識がないのが一般的ですので、プロである我々が短期的な視点ではなくて、長期的な視点に立って、トータルで最も良い提案していく。コストパフォーマンスも含め、最適な提案を行うことが、SDGsにつながる持続可能なエネルギーの使い方にも貢献できると思います。

空調設備業界はそういう提案活動を通じ、エネルギー面で大きな貢献ができる業界です。建築業界は建物を建てて、50年後にスクラップして、また建て替えるケースが多いと思いますが、空調設備業界は、建物を維持管理している期間でも、リニューアルなどを通じてさまざまな貢献ができる。それは我々設備工事業界の大きな魅力だと思います。現在提案を行っている施設は冷凍機のリニューアル案件ですが、冷凍機だけでなく、搬送ポンプのインバーター導入も選択肢としてお話しをしています。設備工事のプロ集団として、お客様はもちろんのこと、地球全体の環境を考えた提案を幅広く行っていくことは、我々の使命の一つだと考えています。

産業と技術革新の基盤をつくる視点で

●若林 お客様のランニングコストが下がり、なおかつSDGsの追求もできたら一石二鳥の提案になります。これは設備工事業界だからできるもので、ぜひ実践すべきだと思います。平野さんは、どうお考えですか。

●平野 SDGsは国際的な目標であり、あまりにも壮大な目標なので、ピンとくる感じではなかったのですが、自分の仕事や身近なものに当てはめて考えてみると、いろいろな取り組みができると思っています。改修工事の提案時に過去のデータを見るのですが、昔の設備に比べ、今の最新の設備は使用水量や、使用熱量、使用電源などがものすごく減少しています。省エネルギーという視点で捉えると、すごい勢いで技術的な進歩を遂げています。



我々設備工事業界は、各種の設備工事を行っています。お客様の要望を聞いたり、こうした過去のデータを把握したり、多種多様な情報を持っています。実際に設備製品を製作しているメーカーと、こうした情報を共有しながらこんな製品がつかれないのかなどと、もっとメーカー側に提案しても良いのではないのかと思っています。

SDGsでは目標値である17ゴールのうち、9番目に「産業と技術革新の基盤をつくろう」というのがあります。我々設備工事業界が、メーカーとより良い協力関係が生まれれば、この9番目の目標にもつながるのではないかと思います。設備工事業の仕事は地味で地道なものです。建築工事業よりも省エネルギーという視点で見ると、近い位置にあります。設備工事業が地球環境に優しい提案ができる業界であることをもっと外部に向けて訴えても良いのかと思います。

●若林 機械メーカーとのタイアップで、産業と技術革新の基盤をつくろうという視点ですね。我々は施工側で、研究開発投資もどちらかというと、施工の効率化や省人化技術に投入されます。最新の設備機械はどうしてもメーカー任せになってしまっています。ただ、我々も施設の維持管理をする中で各種のデータを持っている訳ですから、メーカーとタッグを組んで、試作機の製作などがどんどん進めば、SDGsに貢献できる場面も増えていくのかもしれない。そういう意味では、当協会の賛助会員も増やし、協会が中心となって双方が上手に発展できれば良いと思います。

●山口 設備工事業界がSDGsにどう貢献できるかと考えると、皆さんが言われたようにエネルギーに関する部分だと思えます。省エネルギーや、それに伴う新しいシステム開発などに取り組み、エネルギー削減に少しでも貢献する。建築物をつくる上で、設備工事業が主体的に取り組める省エネルギー分野はもっと積極的に進めるべきだと思います。環境に配慮する取り組みは多岐にわたります。例えば環境に優しい資材の活用や資源循環など、SDGsへの貢献はさまざまな角度からアプローチが可能です。例えば木造建築の高層化なども、木材という自然に優しい素材を活用することで環境に配慮しています。我々も配管工事後に配管の中をきれいにするためのフラッシングで、環境に配慮したやり方を提案しています。

●若林 配管施工後のフラッシングで、どのような環境対策を行っているのですか。

●山口 配管フラッシングは、今までは配管に水を入れて抜くという作業を何回か繰り返し、きれいにしていました。ただ、これでは大量の水を排水してしまうので、水をろ過しながら循環させてフラッシングを行えば水の使



若林 尚史

用量も排水量も減らすことができます。こうした工夫やささいな取り組みを積み重ねることで、環境への配慮やSDGsにつながっていくのではないのでしょうか。

●若林 面白い取り組みですね。この洗管の方法は冷温水配管に対して実施するのですか。

●山口 はい。冷温水配管で行っています。水を抜かないことで、配管のさびも防ぐことができます。管からいったん水を抜いてしまうと、どうしてもさびやすくなりますが、管に水を入れたまま抜かずに使っていければ、酸素濃度が落ち、さびを抑えるという面もあります。

●若林 興味深い取り組みでした。瀧口さんは、SDGsの取り組みをどうお考えでしょうか。

●瀧口 我々の回りにはモノがあふれています。身の回りを見渡しても、年を重ねるごとにモノが増え続けています。そうした状況が持続可能という視点から見ると、本当に良いのでしょうか。やはりモノを大事にするということが持続可能には欠かせない気がします。先ほど山口さんからお話しがあった節水や節電、リサイクル(再利用)は、最終的にはモノを大切にすることにつながっていくのではないのでしょうか。モノがあふれる時代にあっても、モノを大切に取り扱い、再活用する。こうした視点が設備工事業にとっても必要だと思います。

モノを大切にすることで持続可能な社会に

●辻 日本にはもともとモノを大切にする文化があったと思います。ある用途で使えなくなったモノを、次の用途に使う。こうした意識は日本人のどこかに根付いていると思います。古い建物や神社、仏閣などでも傷んだ箇所だけを取り替え修理し、使えるモノはずっと使い、建物を維持しています。またレトロフィットという動きもあります。有名建築家が昭和初期に設計した建物の外観(意匠)を保存しながら、耐震性を高めたり、内装だけ取り替えたりするような事例も見られます。

その一方で、老朽化して他ビルとの競争力を失ったなどの理由で、貴重な建物を壊して、建て替えるケースもあります。例えば大阪・梅田にあるマルビルは梅田地区のランドマークタワーのような役割を担ってきたのに取り壊しが決まりました。はたしてそれが正解なのかと考えてしまいます。

設備工事業界は、使えるモノは最後まで使い切るという考えを持つことが大事だと思います。最新の効率の良い機器に替えていくことはもちろんですが、配管も腐食している部分だけを円滑に取り替えられる工法など、取り組むべき技術開発はたくさんあると思います。

●若林 これから腐食などの理由から配管のリニューアル工事は増えると思います。老朽化や耐震性不足などで建物の建て替えはやむを得ないこともあります。ただ、仮に建物の設備施設だけを更新する場合、配管を外出しにするなど、不格好になるケースもあります。これからは当初から配管のリニューアルがしやすい設計に考えていく必要があると思います。

●辻 同感です。今後新築する建物は、リニューアルを意識した機械室の配置や、配管が取り替えやすい構造にするなど、先を見越した設計が重要になります。建築意匠の担当者に設備の重要性を分かっただけは、建物の長寿命化の視点でも大切だと思います。

●若林 確かに新築案件でパイプスペースが極端に狭いケースもあり、これではリニューアルが難しいと思って我々が設計者にPSをもう少し開けてくださいとお願いしていくことも大切なことです。設備施設の専門家として将来を見据えて、我々が気付いたことはどんどん提案していく必要があると思います。モノを大事にし、できるだけ長く使えるモノは使っていく。そんな気持ちを持ってみんなが仕事をすれば、SDGsにつながっていくのだと思います。我々は水を扱う商売ですが、日本人はいつでも蛇口から水が出ると思っています。ただ、世界的に見ると水不足で悩む国がたくさんあります。水の大切さを教育していくこと、我々もそれを発信していくことが地道な活動ではありますが、重要な気がします。

これまで皆さんからいろいろと意見を出していただきました。若い人に設備工事業界に入職してもらうには、我々の仕事をまず知ってもらうことが大切です。その一つがインターンシップであり、業界のコマーシャルがもしれません。当協会もホームページを定期的に更新し、学生の皆さんに興味持ってもらえるように発信していかなければなりません。

さらに、設備工事は地球に優しく、社会に貢献でき、誇りの持てる仕事だということを、もっと打ち出していく

必要があると思います。今日の話の中にもありましたが、我々が設置する配管などは建物が完成すると、床や天井、壁に隠れて、なかなか一般の人の目には触れません。だから、室内の温度分布などを見てもらい、なぜこんな温度管理になっているのか、「見える化」することも重要です。一般の人に興味を持ってもらう工夫も大切だと思います。

最後になりますが、皆さんの設備工事業に対する熱い思いと、より良き業界づくりに向けた情熱を共有できたと思います。皆さんのご意見を拝聴し、空調衛生工事業は私たちの未来社会を支える重要な存在であることを改めて理解しました。長時間にわたって、ご議論していただき、ありがとうございました。

協会の活動

協会組織図、役員・専門委員・事務局構成

総務委員会の活動

経営委員会の活動

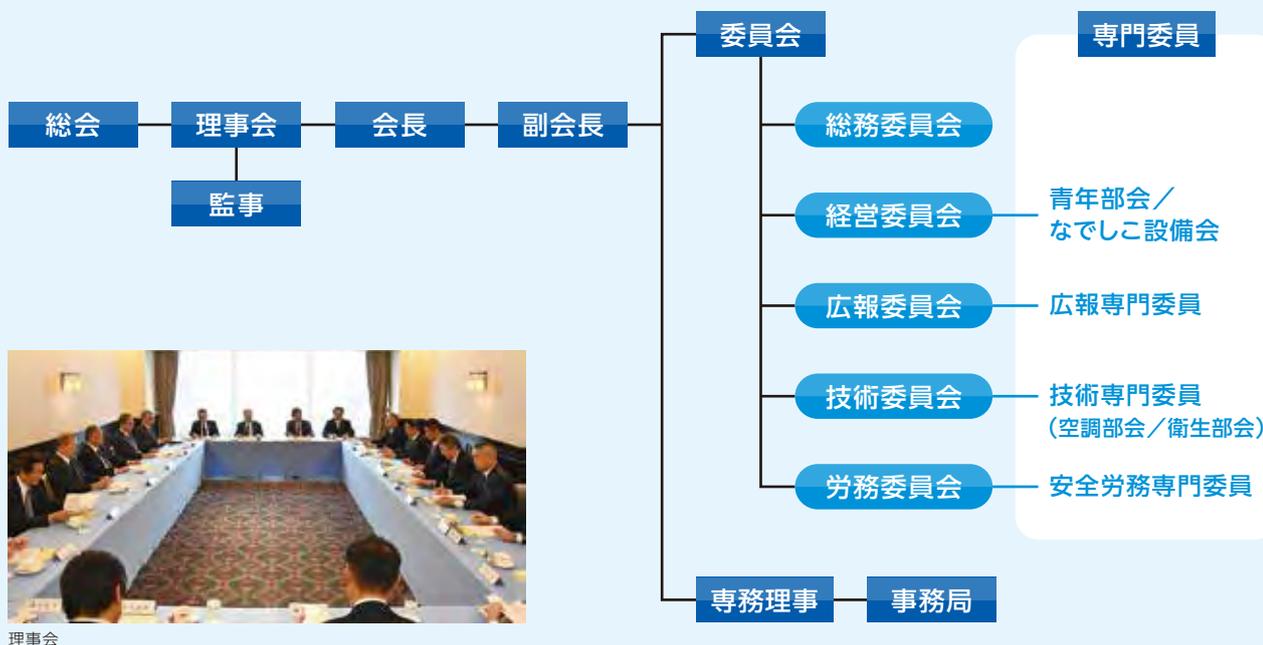
広報委員会の活動

技術委員会の活動

労務委員会の活動

50

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会 組織図



理事会

2023年度(令和5年度)役員 2024年(令和6年)3月31日現在

会長 北村 広外志
 副会長 城口 俊雄 / 若林 尚史 / 河部 和生
 理事 平地 秀行 / 竹田 法正 / 森田 明 / 辻 武寿 / 武田 和夫 / 木村 之彦 / 中村 淳一 / 荒井 泰徳 / 西岡 毅 / 江木 毅 / 赤松 孝宏 / 永田 博巳 / 福地 文雄 / 松本 晋一 / 勝野 耕治 / 上杉 晴一
 専務理事 林 寿二
 監事 金子 達哉 / 樋口 清一



左から 金子 達哉、樋口 清一

事務局 2024年(令和6年)3月31日現在

林 寿二 (専務理事) / 井上 彩子 (主査) / 大金 智子



左から 大金 智子、井上 彩子、林 寿二

専門委員 2024年(令和6年)3月31日現在

【青年部会】

会長 長元 伸吾
 副会長 岸田 佑介 / 大東 一弘 / 佐野 文則
 委員 北川 朝史 / 吉平 誠司 / 村上 太一 / 今井 健太 / 佐野 龍 / 根間 啓史 / 大森 脩平 / 山本 智也 / 筒井 陽平 / 石原 真典 / 田村 秀樹 / 森下 健二郎 / 下山 三四郎 / 池田 良照 / 山口 恵 / 土肥 孝輔 / 福谷 篤正

【なでしこ設備会】

会長 坂本 明子
 委員 伊藤 沙也香 / 北澤 紗央 / 表上 友美 / 脇 寿美 / 岸田 莉央 / 川本 菜月 / 川野 稚菜 / 富羽 睦美 / 安齊 真央 / 野口 久美子 / 谷口 ひかる / 姉川 奈裕子 / 中辻 有紀

【広報専門委員】

柊 彰 / 金谷 泰久

【技術専門委員】

空調部会 益田 佳典 / 辻 晴亮 / 吉田 則章 / 山口 淳志 / 岩見 康秀
 衛生部会 杉田 英人 / 瀧口 佳典 / 平野 匠 / 新保 東輝彦 / 原田 総一郎

【安全労務専門委員】

新原 辰美 / 辻 高司 / 宮地 直人 / 堤 英治 / 稲岡 栄治

交流・ワークライフバランスの向上を目指して

新年交礼会等の開催

毎年1月、国土交通省近畿地方整備局、大阪府等の官公庁や関係諸団体から多数の来賓を迎えて「新年交礼会」を開催しています。また、当協会も構成団体である在阪建築15団体の合同新年交礼会が毎年1月に開催されています。



新年交礼会

定時総会の開催

毎年5月に定時総会を開催し、事業報告および予算の審議・承認、ならびに役員を選任を行っています。また、総会終了後は、懇親会を通じて、会員・賛助会員相互の交流・親睦を図っています。



定時総会

スポーツ大会などの文化活動

会員の福利厚生面の充実および会員相互の親睦を深めるため、スポーツ大会などの文化活動を行っています。なかでも、毎年10月に開催される野球大会は、15チーム前後が参加する伝統的な大会で、昨年で50回目を数えました。



大空会ゴルフ大会 表彰式

また、毎年6月に開催のボウリング大会は、賛助会員を含め

90名前後の参加者があり、賑やかに行われています。さらに、毎年11月には会員および賛助会員が参加してゴルフ大会を開催しております。昨年で17回を数え、恒例のスポーツ大会となっております。



上：野球大会 下：ボウリング大会

功労者の推薦

叙勲、褒章、表彰等の受賞候補者の推薦を行っています。なかでも、優秀建設施工者の表彰は、1994年度(平成6年度)から行われており、当協会を含む建設関連団体が建築・設備の各専門職種における優秀施工者を推薦し、大阪府が表彰しているものです。当協会からは、会員や協力団体からの配管工、ダクト工、熱絶縁工の候補者を大阪府へ推薦しております。



優秀建設施工者 表彰式典



左から
平地 秀行、城口 俊雄、竹田 法正

経営環境の向上を目指して

官公庁との交流促進

毎年、公共工事の課題等について国交省近畿地整営繕部と日空衛近畿支部とで懇談会を開催するとともに、大阪府の発注課とさまざまな課題について協議しています。また、大阪電業協会と合同で、大阪府下の市町村へ直接発注の陳情を毎年11月に行っています。



近畿地整との懇談会



大阪府設備課との懇談会

専門団体との交流促進

当協会と関西配管工事業協同組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会と構成しており、毎年2回開催しており、昨年11月で40回目となります。最近の主な議題としては、設備工事の後工程に配慮した適正工期、4週8閉所に向けた働き方改革の推進等を取り上げ、活発な意見が交わされました。



四団体協議会

新技術等の説明会による会員・賛助会員との交流促進

新技術・新商品説明会は、会員と賛助会員との交流促進を図る目的で2017年(平成29年)から開催し、昨年で7回目となります。また、説明会の後に懇親会を開催し、和やかに歓談し、交流を深めてまいりました。



説明会

日空衛近畿支部会等による交流促進

日空衛近畿支部として、毎年、各府県の空衛協会との情報交換を目的に、会長会議を開催し、活発な意見交換を行っております。また、支部内の会員を対象に支部会を毎年2月に開催し、本部の専務理事から、最近の日空衛の活動について講演を行っていただいております。支部会の後は懇談会を開催し、活発に意見交換を行い親睦を図っております。



日空衛近畿支部会



左から
辻 武寿、城口 俊雄、森田 明、武田 和夫

未来への挑戦 ～希望の溢れる業界へ～

青年部会・なでしこ設備会の活動

青年部会 社会貢献活動

(募金活動・清掃活動)

毎年実施している社会貢献活動として、募金活動と清掃活動を実施しています。



日本赤十字社 大阪府支部 募金



大阪市一斉清掃クリーンUP作戦

青年部会 フットサル大会

会員および賛助会員との新たな交流の機会を設ける目的として、2023年度(令和5年度)より第1回目のフットサル大会を開催。22企業からなるチームが集まり、大いに盛り上がりました。



フットサル大会

なでしこ設備会 体験研修会・見学会 / 青年部会・なでしこ設備会合同 施設見学会

大和ハウスグループの“みらい価値共創センター「コトクリエ」”、(株)三晃空調の“WATT LABO OSAKA SANKO 研修センター”、リンナイ(株)の“ほっとラボ/関西研修センター”等業界に関する施設見学や体験等を開催しています。また、2022年度(令和4年度)より青年会となでしこ設備会の合同で施設見学会を開催しています。



みらい価値共創センター「コトクリエ」



パナソニック(株)アプライアンス社 草津工場

青年部会・なでしこ設備会 定例会

青年部会は毎月、なでしこ設備会は年に数回、活動内容について打ち合わせを行っています。



定例会(青年部会)



定例会(なでしこ設備会)

青年部会・なでしこ設備会合同 実務研修会

毎年行われる実務研修会は、日々の生活や業務に直結し、参加者のスキル向上や知識の充実を図ることを目的としています。各分野で高い専門知識や豊富な実務経験を持つ方を講師としてお呼びして開催しています。



実務研修会

内外への情報発信の向上を目指して

機関誌「大空衛」の発行

1975年(昭和50年)5月に当協会の機関誌「会報」を創刊し、現在1月、7月の年2回発行で94号を数えるに至っています。創刊以来、国交省近畿地方整備局、大阪府知事などからのご寄稿をいただき、当協会の行事の様子や技術ニュース等、会員・賛助会員への幅広い情報提供を行うと同時に、諸官公庁や一般への広報活動の一環としての役割も担っています。



編集委員会

機関誌「大空衛」表紙の更新・充実

表紙については、「大空衛」という漢字表記から、「DAIKUEI」というローマ字表記に刷新しました。



創刊号



第83号



第94号

ホームページの更新・充実

2002年(平成14年)5月にホームページ「大空衛」をスタートさせ、Webを通じて、会員や関係団体、一般に対する情報提供を行うとともに、適宜、更新を図ることでより充実した内容になるよう心掛けております。



ホームページ TOP 画面

50周年記念誌制作委員会への参画

当該委員会は、広報委員・広報専門委員、青年部会およびなでしこ設備会の代表を加え、2022年(令和4年)12月に発足し、2024年(令和6年)6月まで計16回開催しました。内容としては、記念誌の企画・編集・印刷等の受託者の選定に始まり、目次の構成、座談会の内容、50年のあゆみ等、広範多岐にわたり検討を重ねて、発刊に至った次第です。



制作委員会



左から
荒井 泰徳、若林 尚史、
木村 之彦、中村 淳一

空調・衛生技術の向上を目指して

技術専門委員会の開催

空調設備や衛生設備に関する、最新事例の収集や各種指針の調査などを各部会において検討を行い、その結果を技術ニュースとして、機関誌に掲載しています。併せて、ホームページにもアップしています。



空調部会



衛生部会

配管技能コンテストの開催

【目的】 技能の向上に寄与するため、現場で活躍する配管工、建設業界を目指す高校生・専門学校生を対象に配管技能コンテストを実施するものです。現役の配管工と建築設備を学んでいる学生が一堂に会して配管技能の技を競うコンテストは、全国で当協会だけが実施しています。



競技の様子（一般）



競技の様子（学生）

【参加者】 一般の部：配管工（1級技能士程度）30名以下（但し、当協会会員の推薦または当協会が参加を認める者）

学生の部：高校生、専門学校生（3級技能士程度）20名以下（但し、学校の推薦者）

参加学校 高校：大阪府立布施工科高校、大阪府立東住吉総合高校、滋賀県立彦根工業高校
専門学校：大阪工業技術専門学校、大阪府立北大阪高等職業技術専門学校

【表彰】 一般の部：優勝者には、大阪府職業能力開発協会会長賞を授与

第2位から第5位は、大阪空気調和衛生工業協会会長賞を授与

学生の部：優勝者には、大阪府知事賞を授与、第2位から第5位は、大阪空気調和衛生工業協会会長賞を授与
その他 表彰カップ（第1位から第3位）、記念品贈呈

2009年（平成15年）8月 第1回：大阪府立東住吉総合高校で開催

【あゆみ】 2010年（平成16年）8月 第2回～2023年（令和5年）8月 第13回：大阪府立東大阪高等職業技術専門学校で開催

技能五輪出場者支援 出場予定の学生に対して、練習用資材費を支援しています。

登録配管基幹技能者講習（日空衛等3団体主催） に対して、運営協力を行っています。

技能検定建築配管作業実技試験の運営事務 大阪府職業能力開発協会との協定書に基づき運営を受託しています。

大阪府建設工事紛争委員会特別委員の推薦 当協会は大阪府の要請に基づき当該委員会の特別委員を推薦しています。



左から
江木 毅、河部 和生、西岡 毅、
永田 博巳、赤松 孝宏

安全・衛生意識の一層の推進

安全衛生大会の開催

現場における安全・衛生意識のより一層の推進を図るために毎年10月の「全国労働衛生週間」に、「安全衛生大会」を建設交流館で開催しています。本大会は、大阪中央労働基準監督署安全衛生課長に来賓を代表して挨拶をいただき、その他官公庁や関係団体、会員が多数出席して、無災害かつ衛生管理に優れた工事に対する表彰を行うとともに、安全スローガンを全員で唱和して、安全意識の高揚を図っています。また第2部では、文化人やジャーナリストなどを講師にお招きし、社会・経済・政治などに関する特別講演を行っていただいております。



安全衛生大会

安全パトロールの実施

安全パトロールは、安全労務専門委員により、会員企業が元請またはゼネコンの一次下請けの工事現場における空調・衛生工事の安全指導を行うとともに、当該専門委員の安全研修を兼ねて行っております。



安全パトロール

大阪配管高等職業訓練校への運営等協力

本訓練校は、1963年(昭和38年)事業内職業訓練校として設立され、当協会および大阪市管工設備協同組合を母体団体として運営されており、これまで1,100名を超える修了生を輩出しており、配管技能士として現場で活躍されています。当協会としては、本訓練校に対して役員や講師を推薦するとともに、運営費について母体団体として支援しております。



大阪配管高等職業訓練校 修了式

新入社員研修会の実施

本研修会は、毎年4月に大阪電業協会と合同で開催しています。内容としては、社会人として求められる条件、ビジネスマナー、経営者による講話、3～5年目の社員や営業に関する講話、工事に関する熟練社員の体験談など、一日がかりの研修となっております。また、終了後受講者は、感想を含めた報告書を作成し所属会社への提出が求められるなど、充実したプログラムとなっております。



新入社員研修会



左から
松本 晋一、河部 和生、福地 文雄、
勝野 耕治、上杉 晴一

50年のあゆみ

1974年度(昭和49年度)－2023年度(令和5年度)

協会年度:5月－翌4月

歴代役員一覧・役員一同

会員・賛助会員名簿

50

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

昭和49年度
1974-75

- 前身の大阪管工設備研究会発足【1961年10月】
- 社団法人日本空調衛生工事業協会に入会【1967年11月】

- 設立総会【1月】
大阪管工設備研究会(1961年発足)から
社団法人大阪空気調和衛生工事業協会として新たに発足
- 第1回通常総会【3月】
伴一郎初代会長選任
- 大阪府立守口高等職業訓練校に講師派遣【8月】
- 第1回野球大会(以降、毎年開催)【8月】
- 新年交礼会【'75年1月】
- 建設業法第27条第6項の建設業団体届(大阪府知事)【2月】
- 第2回通常総会【3月】
講演/「公共事業と今後—分離発注と問題点」
田中一氏(日刊建設新聞社)
「企業倒産にかかわる法律的諸問題」
岸田功氏(顧問弁護士)
「請負工事契約約款について」栗津光世氏(弁護士)
- 見学会/積水化学工業(株) 京都工場および栗東工場

- モナリザ公開【4月】
- 国土庁発足【6月】
- 航空審議会が関空建設地を泉州沖にすることを
答申【8月】
- 佐藤栄作前首相ノーベル平和賞【10月】
- 三木武夫内閣発足【12月】
- 第1次不況対策(公共事業契約枠消化促進など)決定
【'75年1月】
- ベトナム戦争終結【4月】
- 雇用保険法施行【4月】

昭和50年度
1975-76

- 「会報」創刊【5月】
- 新年交礼会【'76年1月】
- 第3回通常総会【3月】
講演/「建設業の経済観測」
宮川敦雄氏(毎日新聞論説委員・ニュースキャスター)
- 見学会/住友金属工業(株) 和歌山製鉄所

- 第二種市街地再開発事業創設【7月】
- 沖縄海洋博開幕【7月】
- 米国とソ連の宇宙船ドッキング【7月】
- 宅地開発公団発足【9月】
- 広島東洋カープがセ・リーグ初優勝【10月】
- 日本初の五つ子誕生【'76年1月】
- ロッキード事件【2月】
- 建設事業所の日曜全休スタート【4月】

昭和51年度
1976-77

- 初めての安全大会【7月】
講演/「建設業における災害発生とその対策」
尾形望氏(近畿地方建設局)
- 新年交礼会【'77年1月】
- 第2回臨時総会【1月】
- 第4回通常総会【3月】
- 見学会/新明和工業(株) 宝塚工場および甲南工場

- 激甚災害対策特別緊急事業創設【5月】
- モントリオール五輪開幕【7月】
- ミグ25事件【9月】
- 西日本を中心に記録的豪雨【9月】
- 酒田市大火【10月】
- 福田赳夫内閣発足【12月】
- 日ソ200海里漁業専管水域設定【'77年3月】
- 環境庁が環境アセスメント方針指示【4月】

昭和52年度
1977-78

- 日本空調衛生工事業協会第28回通常総会を
大阪で開催【5月】
- 安全大会【7月】
講演/「最近の中近東情勢と日本」
中山正暉氏(衆議院議員)
- 新年交礼会【'78年1月】
- 第5回通常総会【3月】
尾亀清四郎新会長選任
- 見学会/ダイハツ工業(株) 池田工場
- 講習会/給排水衛生設備におけるトラブル事例と対策
空調設備におけるトラブル事例と対策
配管材料と腐食問題と対策

- 改正独占禁止法公布(課徴金制度創設)【6月】
- 日本初の気象衛星「ひまわり」打ち上げ成功【7月】
- 北海道有珠山噴火【8月】
- 王貞治HR756号世界新記録【9月】
- 南港ポートタウン街開き【10月】
- 伊豆大島近海地震M7.0【'78年1月】
- 公共事業施行対策近畿協議会発足【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

昭和53年度
1978-79

- 安全大会【6月】
講演／「日本をとりまく世界の情勢について」
中山正暉氏（衆議院議員）
- 労働省職業安定局から雇用改善モデル事業団体として認定【9月】
- 新年交礼会【'79年1月】
- 第6回通常総会【3月】
講演／「経営と商売、知識と知恵」
新津靖氏（大阪大学名誉教授）
- 見学会／大阪ガス(株) 泉北工場
- 研修会／これからの新しい配管工事の手法について

- 新東京国際空港（成田空港）開港【5月】
- 農林省を農林水産省に改称【7月】
- 英で初の試験管ベビー誕生【7月】
- 大平正芳内閣発足【12月】
- 第2次石油ショック【'79年1月】
- 米スリーマイル島放射能漏れ事故【3月】

昭和54年度
1979-80

- 第3回臨時総会【5月】
理事の増員を決議
- 大阪府管工事業協同組合創立40周年記念式典開催【5月】
- 安全大会【6月】
- 新年交礼会【'80年1月】
- 第7回通常総会【3月】
講演／「建設業の見通しと関西新空港建設について」
佐藤一段氏（産経新聞経済部長）

- 東京サミット開催【6月】
- 歩切り問題表面化【7月】
- 阿蘇山中岳大爆発【9月】
- 省エネルギー法施行【10月】
- ソ連がアフガニスタン侵攻【12月】
- 建設産業経済研究所発足【'80年3月】
- 1980年度の建設投資が初の50兆円に【4月】

昭和55年度
1980-81

- 安全大会【6月】
講演／「こんな時どうする－80年代の中小企業経営者像」
島津亮二氏（京都大学経済学部助教授）
- 新年交礼会【'81年1月】
- 公正取引委員会成立届【1月】
- 第8回通常総会【3月】
講演／「最近の経済事情」
佐藤一段氏（産経新聞経済部長）
- 講習会／ソーラーシステム講習会

- 鈴木善幸内閣発足【7月】
- モスクワ五輪開催（西側67か国不参加）【7月】
- イラン・イラク戦争勃発【9月】
- 通産省が建設業を不況業種に指定【9月】
- ローマ法王初来日【'81年2月】
- 神戸ポートピア'81開幕【3月】
- 1級技能士現場常駐制度実施【4月】

昭和56年度
1981-82

- 安全大会【6月】
講演／「社会のうらおもて」
早川三郎氏（協会顧問）
- 1級技能士（配管科）技能向上訓練実施
（大阪府認定事業1999年度から関西配管協同組合に移管）
【10月】
- 新年交礼会【'82年1月】
- 第4回臨時総会【1月】
- 講習会／空調・衛生設備の設計と積算講習会

- 建築基準法施行令改正（新耐震設計法導入）【6月】
- 東京・大阪・名古屋の3都市間でFAX伝送始まる【7月】
- 住宅・都市整備公団発足【10月】
- 福井謙一氏ノーベル化学賞【10月】
- 羽田沖で日航機墜落事故【'82年2月】
- 浦河沖地震M7.1【3月】
- 500円硬貨発行【4月】

昭和57年度
1982-83

- 第9回通常総会【6月】
- 安全大会【8月】
講演／「探検における人間性の尊重」
西堀栄三郎氏（南極探検隊長・京都大学教授）
- 新年交礼会【'83年1月】
- 研修会／建設業のコンピュータ利用研修
耐震型水槽、ヒートポンプによる給湯システム研修会

- 建設省が6月から入札結果を公表するよう通達【5月】
- 来年度予算要求率5%削減を閣議決定
（初のマイナスシーリング）【7月】
- 戸塚ヨットスクール事件【8月】
- 中曽根康弘内閣発足【11月】
- テレホンカード登場【12月】
- 関西文化学術研究都市建設推進協議会発足【'83年3月】
- 東京ディズニーランド開園【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

昭和58年度
1983-84

- 第10回 通常総会【5月】
- 安全大会【7月】
- 建設大臣表彰受賞
(第35回国土建設週間優良建設業者団体表彰)【7月】
- 新年交礼会【'84年1月】

- 大阪駅前市街地改造事業(第1~第4ビル)完成【5月】
- 建設省に民間活力検討委員会を設置【7月】
- ファミコン発売【7月】
- ソ連が大韓航空を撃墜【9月】
- 三宅島大噴火【10月】
- 公取委が建設業団体向け独禁法ガイドラインを公表【'84年2月】
- 建設業法施行令改正【4月】

昭和59年度
1984-85

- 第11回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【9月】
講演/「信頼されるリーダーとしての条件」
原田清氏(大阪労働基準局安全課長)
- 新年交礼会【'85年1月】
- 大阪府建設工事紛争審査会特別委員を推薦【3月】
- 研修会/コンピュータ積算システム研修会

- 衛星放送スタート【5月】
- 日本、世界一の長寿国へ【6月】
- ロス五輪開催(ソ連など不参加)【7月】
- 関西国際空港(株)発足【10月】
- 科学万博つくば'85開幕【'85年3月】
- NTT、日本たばこ産業発足【4月】

昭和60年度
1985-86

- 第12回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
- 新年交礼会【'86年1月】
- 研修会/建設関連コンピュータシステム利用研修会

- 関西学研都市起工(祝園)【6月】
- 日航ジャンボ機御巣鷹山墜落【8月】
- 阪神タイガース初の日本一【10月】
- 大阪市新庁舎竣工【'86年1月】
- チェルノブイリ原発事故【4月】

昭和61年度
1986-87

- 第13回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
- 新年交礼会【'87年1月】
- セミナー/
21世紀への建設産業ビジョンとコンピュータ利用
建設業の現状と今後の課題、コンピュータ利用

- 男女雇用機会均等法成立【5月】
- 東京サミット開催【5月】
- 社会党委員長に土井たか子(初の女性党首)【9月】
- 関空入札セミナー開催(米国企業の参入)【10月】
- 竹下登内閣発足【11月】
- 三原山大噴火【11月】
- 関西国際空港着工【'87年1月】
- 建設業許可審査業務のOA化スタート【4月】
- 国鉄民営化、JR発足【4月】

昭和62年度
1987-88

- 第14回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演/「健康と食生活」西村恭祐氏(京都文教大学講師)
- 新年交礼会【'88年1月】
- セミナー/建設業コンピュータ利用セミナー

- 世界人口が50億人突破【7月】
- 花と緑の博覧会会場建設起工【10月】
- 民間都市開発促進機構設立【10月】
- 利根川進氏ノーベル医学生理学賞【10月】
- 東京ドーム竣工【'88年3月】
- 日米建設協議合意【3月】
- 青函トンネル開業【3月】
- 瀬戸大橋開通【4月】

昭和63年度
1988-89

- 第15回 通常総会【5月】
伴一郎新会長選任
- 9月伴一郎会長逝去に伴い、山本光彦新会長選任【10月】
- 安全衛生大会【10月】
講演/「建設業を脅かす民事介入暴力の実態と対応策について」宮崎乾朗氏(弁護士)
- セミナー/建設業総合OA活用セミナー

- リクルート事件【6月】
- ソウル五輪開催【9月】
- 北海道十勝岳噴火【12月】
- 昭和天皇崩御、新元号「平成」【'89年1月】
- 金融機関が完全土体制【2月】
- 横浜博'89開幕【3月】
- 消費税3%開始【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成
元年
年度
1989-90

- 第16回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「瓦の生命感－新しい建設素材としての瓦の魅力」
山田脩二氏（淡路瓦師）
- 新年交礼会【'90年1月】
- セミナー／建設業総合OA活用セミナー

- 中国天安門事件勃発【6月】
- 宇野宗佑内閣発足【6月】
- ベルリンの壁崩壊【11月】
- 土地基本法成立【12月】
- 国際花と緑の博覧会開幕【'90年4月】

平成
2年
年度
1990-91

- 第17回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「こんな会社に人がくる」
川喜多喬氏（法政大学教授）
- 新年交礼会【'91年1月】
- 研修会／職業生涯モデルプランの概要について
人手不足と外国人雇用問題
- セミナー／建設産業コンピュータ&CADセミナー
建設業総合OAシステムの活用について

- 大阪モノレール初の開業（千里中央－南茨木間）【6月】
- 公共投資基本計画閣議決定（10年間で総額430兆円）【6月】
- 礼宮・紀子様ご成婚【6月】
- 秋山豊寛氏日本人初の宇宙飛行【12月】
- バブル崩壊【'91年3月】
- 東京都新都庁完成【4月】
- 建設業の週休2日制スタート【4月】

平成
3年
年度
1991-92

- 第18回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「関西商法の源流と新流」
近藤弘氏（仏教大学社会学部教授）
- 「空調設備施工管理のチェックポイント」発刊
（技術委員会編集）【10月】
- 新年交礼会【'92年1月】
- 研修会／若年労働者の労働市場状況の現状について
- セミナー／空調衛生工事業「電算システムセミナー」
建設産業「電算システムセミナー」

- 暴対法成立【5月】
- 雲仙普賢岳噴火、大火砕流発生【6月】
- リサイクル法施行【10月】
- 宮澤喜一内閣発足【11月】
- ソ連消滅【12月】
- 建設産業の4週6休制普及促進全国大会【'92年3月】
- 新幹線「のぞみ」運転開始【3月】
- 育児休業法施行【4月】

平成
4年
年度
1992-93

- 第19回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「ああ、歌と人生～人生の応援歌」
高田直和氏（作詞家・イベントプロデューサー）
- 技術参考書「給排水・衛生設備施工管理の
チェックポイント」発刊（技術委員会編集）【12月】
- 新年交礼会【'93年1月】
- セミナー／空調衛生工事業システムセミナー
設備工事業システムセミナー
若年層雇用促進採用アップセミナー

- 国家公務員の完全週休2日制開始【5月】
- 気候変動枠組み条約策定【6月】
- バルセロナ五輪開幕【7月】
- 学校週5日制開始【9月】
- ECが市場統合【'93年1月】
- けいはんなプラザ完成【4月】
- 建設省が道の駅創設【4月】

平成
5年
年度
1993-94

- 第20回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「たたかう男たちのドラマ」
植草貞夫氏（元朝日放送アナウンサー）
- 新年交礼会【'94年1月】
- 20周年記念式典・祝賀会、
記念誌「水と空気～Since1973～」発刊【3月】

- 皇太子殿下（徳仁親王）ご成婚【6月】
- 細川護熙連立内閣誕生【8月】
- 東北地方大冷害で米不足【9月】
- 環境基本法公布・施行【11月】
- 気候変動枠組条約発効【'94年3月】
- 建設省がリサイクルプラン21策定【4月】
- 羽田孜内閣誕生【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成6年度
1994-95

- 第21回 通常総会【5月】
菅谷節 新会長選任
- 安全衛生大会【10月】
講演／「落語人生・修行いろいろ」桂文枝氏（落語家）
- 新年交礼会【'95年1月】

- 建設業法の一部改正（経営審査事項の義務付けなど）【6月】
- 村山富市内閣誕生【6月】
- 関西国際空港開港【9月】
- 北海道東方沖地震 M8.1【10月】
- 三陸はるか沖地震 M7.5【12月】
- WTO 政府調達協定発効【'95年1月】
- 兵庫県南部地震 M7.2【1月】
- 地下鉄サリン事件【3月】

平成7年度
1995-96

- 第22回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「歴史に学ぶリーダーの条件」神田松鯉氏（講師）
- 協会通信創刊【10月】
- 会章制定【12月】
～「澄んだ空気と澄んだ水」が回転しながら
「O」（オー）のシルエットを形成するイメージ～
- 新年交礼会【'96年1月】

- 地震防災特別措置法公布【6月】
- APEC 大阪会議開催【11月】
- 「もんじゅ」でナトリウム漏れ【12月】
- 橋本龍太郎内閣誕生【'96年1月】
- 英で狂牛病騒動【3月】

平成8年度
1996-97

- 第23回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「講談スペシャルと講談教室」神田紅氏（講師）
- 「配管系のトラブル事例集」発刊（技術委員会編集）
【11月】
- 新年交礼会【'97年1月】

- 堺市でO157 集団食中毒発生【7月】
- アトランタ五輪開催【7月】
- ISO 14000 発行【9月】
- 阪神高速道路神戸線全面復旧【9月】
- 原爆ドームが世界遺産登録【12月】
- 基礎年金番号導入【'97年1月】
- 消費税5%へ引き上げ【4月】

平成9年度
1997-98

- 第24回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「私の相撲人生」若松親方（元大関朝潮）
- 日本空調衛生工事業協会第4回全国会議を
大阪で開催【11月】
- 新年交礼会【'98年1月】

- 香港が中国に返還【7月】
- 大阪湾咲州トンネル開通【10月】
- 山一証券自主廃業【11月】
- COP3（国連気候変動枠組条約第3回締約国会議）において
京都議定書採択【12月】
- 政府において今後の地球温暖化対策について方針決定
【12月】
- 長野冬季五輪開催【'98年2月】

平成10年度
1998-99

- 第25回 通常総会【5月】
近藤徹 新会長選任
- 安全衛生大会【10月】
講演／「『笑売人』その情と理－吉本商法のうらおもて」
竹本浩三氏（作家・吉本文芸館館長・帝塚山大学講師）
- 経営委員会に青年部会を設置【10月】
- 新年交礼会【'99年1月】

- 小淵恵三内閣発足【7月】
- 経営事項審査の結果公表スタート【9月】
- 改正省エネ法が施行【10月】
- 地球温暖化対策の推進に関する法律施行【10月】
- EUで統一通貨「ユーロ」発行【'99年1月】
- 日銀ゼロ金利政策【2月】
- 男女雇用機会均等法施行【4月】
- 政府において地球温暖化対策に関する法律施行【4月】

平成11年度
1999-2000

- 第26回 通常総会【5月】
- 「空気調和設備の申請・届出マニュアル」発刊
（技術委員会編集）【7月】
- 「給水・排水・浄化槽・消火設備の申請・届出マニュアル」
発刊（技術委員会編集）【7月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「ゴルフよもやま話」
島田幸作氏（日本ゴルフツアー機構ディレクター）
- 新年交礼会【'00年1月】

- 情報公開法成立【5月】
- PFI 促進法成立【7月】
- 全日空機ハイジャック事件【7月】
- NTT 分割【7月】
- 関西国際空港2期起工【8月】
- 東海村原発臨界事故【9月】
- 大阪府知事に太田房江（初の女性知事）【'00年2月】
- 労働省に大阪労働局設置【4月】
- 森喜朗内閣発足【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成
12
年度
2000-01

- 第27回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「スカウトよもやま話」
片岡宏雄氏（ヤクルト球団取締役編成担当）
- 新年交礼会【'01年1月】
- 会報を「大空衛」として、リニューアル発刊【1月】

- 三宅島火山噴火（9月に全島民避難）【6月】
- 九州・沖縄サミット開催【7月】
- シドニー五輪開催【9月】
- 白川英樹氏ノーベル化学賞【10月】
- 公共工事入札・契約適正化促進法成立【11月】
- 中央省庁再編、国土交通省発足【'01年1月】
- 米軍原子力潜水艦が宇和島水産高校実習船と衝突事故【2月】
- 小泉純一郎内閣発足【4月】

平成
13
年度
2001-02

- 第28回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「勝負の世界に生きて－近ごろ私の思うこと」
内藤國雄氏（将棋九段）
- 「職長・安全衛生責任者教育」を初めて開催【11月】
（以降、2013年まで実施）
- 新年交礼会【'02年1月】
- 大空衛（会報）第50号を発刊【1月】

- ニューヨークで同時多発テロ事件【9月】
- 野依良治氏ノーベル化学賞【10月】
- マイカル倒産【10月】
- 国交省が電子入札第1号案件開札【11月】
- 環境省が京都議定書目標達成へ改正法案【'02年3月】
- 公立学校完全週5日制スタート【4月】

平成
14
年度
2002-03

- 第29回通常総会【5月】
菅谷梓新会長選任
- ホームページ「大空衛」開設【5月】
- 「空調設備の不具合（不具合例 原因と対策）」発刊
（技術委員会編集）【9月】
- 「間違い易い給排水衛生設備工事（知ってるつもりが…
生兵法けがのもと）」発刊（技術委員会編集）【9月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「生きる勇気をありがとう」
清水哲氏（元PL学園高等学校野球選手）
- 新年交礼会【'03年1月】

- サッカーW杯日韓共催【5月】
- 建設リサイクル法施行【5月】
- 小柴昌俊氏ノーベル物理学賞、
田中耕一氏ノーベル化学賞【10月】
- 北朝鮮に拉致された5人が24年ぶりに帰国【10月】
- 日本郵政公社発足【'03年4月】
- 国交省、電子入札運用基準発表【4月】

平成
15
年度
2003-04

- 第30回通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「賢い借金の整理法あれこれ」
木村達也氏（弁護士）
- 新年交礼会【'04年1月】
- 新年度から「協会通信」の廃刊決定【2月】

- 宮城県沖地震M7.1【5月】
- 国立大学法人法成立（89法人）【7月】
- 住民基本台帳ネットワーク本格稼働【8月】
- 自衛隊イラク派遣開始【'04年1月】
- 新東京国際空港が民営化、成田国際空港(株)に【4月】

平成
16
年度
2004-05

- 第31回通常総会【5月】
榎淑也新会長選任、30周年記念式典・祝賀会
- 記念誌「大空衛30年のあゆみ」発刊【7月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「病気になるしない十か条」橘家円三氏（落語家）
- 新年交礼会【'05年1月】
- 「空気調和設備の図表による簡略算定法」発刊
（技術委員会編集）【2月】
- 「給排水設備のノモグラフによる簡略算定法と
配管口径の決定法」発刊（技術委員会編集）【2月】

- 都市再生機構発足【7月】
- アテネ五輪開催【8月】
- 新潟県中越地震M6.8【10月】
- 台風23号近畿に上陸、激甚災害【10月】
- 京都議定書発効【'05年2月】
- 福岡県西方沖地震M7.0【3月】
- 愛知万博開幕【3月】
- JR福知山線脱線事故【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成
17
年度
2005-06

- 第32回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「ゆでカエルになるなかれ～ドラマチックな
発想の転換を求めて」諸岡和彦氏（元アサヒ飲料(株)常務）
- 新年交礼会【'06年1月】

- 道路4公団民営化【10月】
- 耐震強度構造計算書偽装事件発覚【11月】
- 日本郵政(株)発足【'06年1月】
- 改正独占禁止法施行【1月】
- 神戸空港開港【2月】
- 第1回WBC、王ジャパン世界一【3月】

平成
18
年度
2006-07

- 第33回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「これからの中高年のゴルフスイング」
田中久夫氏（日本ゴルフスイング形成クリニック
スイングドクター）
- 新年交礼会【'07年1月】

- 建築基準法等の一部改正【6月】
- 安倍晋三内閣発足【9月】
- 阪急阪神HD誕生【10月】
- 防衛庁が防衛省へ移行【'07年1月】
- 能登半島地震M6.9【3月】

平成
19
年度
2007-08

- 第34回 通常総会【5月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「どうなるこれからの日本－テレビの裏側から－」
若林正人氏（元放送タレント）
- 日本空調衛生工事業協会第14回全国会議を
京都で開催【10月】
- 「空調設備工事のトラブル予防」発刊（技術委員会編集）【10月】
- 「給排水衛生設備工事の事前チェック」発刊
（技術委員会編集）【10月】
- 大阪府と防災協定締結
「本庁舎の災害復旧支援に関する協定書」【12月】
- 新年交礼会【'08年1月】

- 関空第2滑走路供用開始【8月】
- 「三方よし公共工事のためのハツラツ現場推進会議」
発足【8月】
- 記録的猛暑で熱中症死相次ぐ、
74年ぶりに最高気温更新40.9℃【8月】
- 福田康夫内閣発足【9月】
- 国交省が緊急災害対策派遣隊（テックフォース）を
発足【'08年4月】
- 後期高齢者医療制度（長寿医療制度）スタート【4月】

平成
20
年度
2008-09

- 第35回 通常総会【5月】
- 協会と大阪府管工事業協同組合の統合【5月】
- 協会事務所を大阪市中央区安土町1-6-14
朝日生命辰野ビル2階に移転【7月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「ラグビーに学ぶリーダーシップ」
林敏之氏（ラグビー元日本代表キャプテン）
- 新年交礼会【'09年1月】

- 北京五輪開催【8月】
- 麻生太郎内閣発足【9月】
- リーマン・ブラザーズ経営波綻、世界的金融不安【9月】
- 環境庁発足【10月】
- 南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏ノーベル物理学賞、
下村脩氏ノーベル化学賞【10月】
- 米国初の黒人大統領、バラク・オバマ当選【11月】
- 高速道路土日祝日上限1,000円【'09年3月】

平成
21
年度
2009-10

- 第36回 通常総会【5月】
- 賛助会員募集開始【6月】
- 第1回配管技能コンテスト開催（41名参加）【8月】
現役配管工と高校生・専門学生により
配管工のスキルアップと将来の配管工を育成するのが目的
- 当協会と関西配管工事業協同組合、近畿空調工事業協同
組合、近畿保温保冷工業協会との四団体協議会発足【8月】
- 青年部会主催 第1回営業実務研修会開催【9月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「普段着の心理学～仕事や家族、友人関係で
すぐ役立つ」林恭弘氏（心理カウンセラー）
- 新年交礼会【'10年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に初めて寄付【3月】
- 「給排水衛生設備技術者のメモ・ノート」発刊【3月】

- 裁判員制度スタート【5月】
- 衆院選で民主党勝利、政権交代【8月】
- 鳩山由紀夫内閣発足【9月】
- 宮崎県で口蹄疫問題発生【'10年4月】
- こども手当支給開始【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成
22
年度
2010-11

- 第37回通常総会【5月】
- 技術図書「給排水衛生設備技術者のメモ・ノート」
発刊記念講習会開催【7月】
- 第2回配管技能コンテスト開催〈41名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「環境問題の真実と日本」
武田邦彦氏（中部大学教授）
- 新年交礼会【'11年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【2月】
- 東日本大震災の義援金を日本赤十字社に贈る【4月】

- 菅直人内閣発足【6月】
- 東北新幹線、八戸-新青森間675km全線開通【12月】
- 東北地方太平洋沖地震M9.0【'11年3月】
- 大相撲、八百長問題で春場所中止【3月】
- 九州新幹線、博多-鹿児島中央間全線開通【3月】

平成
23
年度
2011-12

- 第38回通常総会【5月】
大平哲也新会長選任、一般社団法人移行を決議
- ホームページをリニューアル【7月】
- 第3回配管技能コンテスト開催〈44名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「身体の中の放射能～原発と環境～」
安齋育郎氏（立命館大学名誉教授）
- 新年交礼会【'12年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【2月】

- サッカー女子W杯でなでしこジャパンが世界一【6月】
- 小笠原諸島が世界自然遺産、
平泉が世界文化遺産に登録【6月】
- 紀伊半島大豪雨災害（台風12号）【9月】
- 野田佳彦内閣発足【9月】
- 大阪ダブル選挙、
維新の会の松井知事・橋下市長当選【11月】
- 首都・阪神高速が距離別料金制に移行【'12年1月】
- 復興庁発足【2月】

平成
24
年度
2012-13

- 第39回通常総会【5月】
- 第4回配管技能コンテスト開催〈39名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「心元気で、ゼロ災害をめざす！」
鎌田敏氏（こころ元気研究所所長）
- 新年交礼会【'13年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【2月】
- 一般社団法人へ移行【4月】

- 42年ぶりに国内の原子力発電がすべて停止【5月】
- 東京スカイツリー開業【5月】
- 九州北部豪雨災害【7月】
- ロンドン五輪開催【7月】
- 山中伸弥氏ノーベル生理学・医学賞【10月】
- 第2次安倍晋三内閣発足【12月】
- 東証と大証が経営統合【'13年1月】
- 地球温暖化対策の推進に関する法律の一部改正法公布【3月】

平成
25
年度
2013-14

- 第40回定時総会【5月】
太田隆新会長選任
- 第5回配管技能コンテスト開催〈43名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「ムシの眼 ヒトの眼
～人は騙しだまされて生きている」
池田清彦氏（早稲田大学国際教養学部教授）
- 新年交礼会【'14年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 富士山が世界文化遺産登録【6月】
- 強靱化3法が臨時国会で成立【12月】
- あべのハルクスグランドオープン【'14年3月】
- 政府が建設分野で外国人労働者を活用するための
緊急措置法を決定【4月】
- 消費税8%に引き上げ【4月】

平成
26
年度
2014-15

- 第41回定時総会【5月】
- 第6回配管技能コンテスト開催〈41名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「捕手目線のリーダー論～六つの要～」
矢野耀大氏（プロ野球解説者）
- 新年交礼会【'15年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【4月】

- 錦織圭がアジア男子初の全米オープンテニス大会
準優勝【9月】
- 御嶽山噴火、戦後最大の火山災害【9月】
- JR東海がリニア中央新幹線の工事に着手【12月】
- 北陸新幹線、長野-金沢間開業【'15年3月】
- 担い手3法が全面施行【4月】
- 外国人建設就労者受け入れ事業スタート【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

平成
27
年度
2015-16

- 第42回定時総会【5月】
- 協会事務所を大阪市中央区安土町1-7-20
新トヤマビル3階に移転【6月】
- 第7回配管技能コンテスト開催〈45名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「日本の政治はどう動いているのか
～デフレ脱却のアベノミクスは幻想に終わるのか～」
後藤謙次氏（ジャーナリスト）
- 新年交礼会【'16年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 国交省が公共工事の歩切りの根絶で全都道府県と合意【7月】
- 国交省が社会保険未加入の1次下請業者の
完全排除措置を開始【8月】
- SDGs（持続可能な開発目標）を国連総会で採択【9月】
- 大村智氏ノーベル生理学・医学賞、
梶田隆章氏ノーベル物理学賞【10月】
- COP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）
において、パリ協定採択【11月】
- 日銀が国内初のマイナス金利導入を決定【'16年1月】
- 熊本地震 M7.3【4月】

平成
28
年度
2016-17

- 第43回定時総会【5月】
古新亮英 新会長選任
- 第8回配管技能コンテスト開催〈40名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「どうなる日本の政治」
橋本五郎氏（ジャーナリスト）
- 日本空調衛生工事業協会第23回全国大会を
神戸で開催【10月】
- 新年交礼会【'17年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 改正建築基準法施行【6月】
- 東京都知事に小池百合子（初の女性都知事）【8月】
- リオ五輪開催【8月】
- 米大統領にドナルド・トランプ当選【11月】
- パリ協定発効【11月】
- 建設職人基本法が成立【12月】
- 無電柱化推進法が成立【12月】
- 東京五輪のメイン会場となる新国立競技場が起工【12月】
- 森友学園問題【'17年2月】
- 加計学園問題【3月】

平成
29
年度
2017-18

- 第44回定時総会【5月】
- 第9回配管技能コンテスト開催〈42名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「今、何が起きているのか。
世界経済と日本経済」森永卓郎氏（獨協大学教授）
- 賛助会員による「新技術・新商品説明会」を
新たに開催、毎年11月に開催【11月】
- 新年交礼会【'18年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 第3次安倍晋三内閣発足【8月】
- 桐生祥秀が100m走で日本人初の9秒98を記録【9月】
- 平昌冬季五輪開催【'18年2月】
- 国交省が公共工事設計労務単価を2.9%、
技術者単価を3.0%引き上げ【3月】
- 登録基幹技能者の給与が5,500円増加【4月】

平成
30
年度
2018-19

- 第45回定時総会【5月】
- 第10回配管技能コンテスト開催〈48名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「スポーツ解体新書
～どうすれば日本は勝てるのか?～」
玉木正之氏（作家・音楽評論家・スポーツライター）
- 新年交礼会【'19年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 改正労働基準法など働き方改革法が成立【7月】
- 西日本で記録的豪雨災害【7月】
- 大坂なおみが全米オープンテニス大会優勝【9月】
- 2025年の万博開催地が大坂・関西に決定、夢洲が会場【11月】
- 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が
閣議決定（総事業費約7兆円）【12月】
- フルハーネス型安全帯の着用原則化【'19年2月】
- 環境省が大規模石炭火力発電の新増設を認めず【3月】
- 建設キャリアアップシステム（CCUS）本運用がスタート【4月】

令和
元
年度
2019-20

- 第46回定時総会【5月】
- 青年部会【6月】
G20大阪サミット「グリーンUP作戦」を実施
- 第11回配管技能コンテスト開催〈44名参加〉【8月】
- 安全衛生大会【10月】
講演／「医療小説の現在～人生の最終章を幸せに
生きる～」久坂部羊氏（作家・医師・大学特任教授）
- 青年部会【11月】
大阪マラソン「グリーンUP作戦」を実施
- 新年交礼会【'20年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】

- 徳仁天皇即位、新元号「令和」【5月】
- パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定を
閣議決定【6月】
- 新・担い手3法が成立【6月】
- 日本空調衛生工事業協会がBIM推進部会新設【7月】
- 渋野日向子が全英女子ゴルフ大会優勝【8月】
- 消費税10%へ引き上げ【10月】
- 設計労務単価、最高値更新し2万円台に【'20年2月】
- 東京五輪開催延期決定【3月】
- 新型コロナ緊急事態宣言【4月】
- 「日本のNDC（国が決定する貢献）」を
地球温暖化対策推進本部において決定【4月】

協会のあゆみ

行政・建設業、社会の動き、地球温暖化対策

令和2年度
2020-21

- 第47回定時総会【5月】
池田隆之新会長選任
- 日空衛が「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する工事現場のガイドライン」を作成【5月】
- 安全衛生大会【10月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【'21年3月】

- 国交省が20年度内に標準見積改定、職長手当を別枠計上に【6月】
- 藤井聡太が最年少二冠達成・八段昇段【8月】
- 菅義偉内閣発足【9月】
- 首相所信表明演説「脱炭素社会の実現」2050年「カーボンニュートラル」を目指す【10月】
- 国交省が発足20周年【'21年1月】
- 特定技能外国人の現地試験始動、フィリピンで初開催【3月】
- 松山英樹がマスターズゴルフ大会優勝【4月】

令和3年度
2021-22

- 第48回定時総会【5月】
- 会員企業の女性社員による「なでしこ設備会」設置【7月】
- 安全衛生大会【10月】
- なでしこ設備会【11月】
株三晃空調 WATT LABO OSAKA
SANKO 研修センター 見学会および体験研修
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【'22年3月】

- 熱海で大規模土石流が発生【7月】
- デジタル庁が発足【9月】
- 岸田文雄内閣発足(第100代内閣総理大臣)【10月】
- COP26(国連気候変動枠組条約第26回締約国会議)において「産業革命前からの気温上昇を1.5度に抑えるとした努力目標」が合意【11月】
- 国交省が新築官庁施設を原則ZEB化【'22年2月】
- ロシアがウクライナへ軍事侵攻【2月】

令和4年度
2022-23

- 第49回定時総会【5月】
- 第12回配管技能コンテスト開催(34名参加)【8月】
- 青年部会・なでしこ設備会合同研修会【9月】
講演/「一人一人の「好き」と「得意」いかす
これからの働き方」石原孝尚氏(プロサッカーコーチ)
- 安全衛生大会【10月】
- なでしこ設備会見学会【10月】
大和ハウスグループ みらい価値共創センター「コトクリエ」
- 新年交礼会【'23年1月】
- 青年部会【2月】
大阪市一斉清掃「グリーンUP作戦」
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】
- 青年部会・なでしこ設備会合同施設見学会【3月】
パナソニック(株)アプライアンス社 草津工場

- 公取委が独占禁止法違反防止へ「Gメン」創設【5月】
- 厚労省が墜落・転落災害防止へマニュアル大幅改定【5月】
- 安倍元首相銃撃事件【7月】
- 第2次岸田文雄内閣発足【8月】
- COP27(国連気候変動枠組条約第27回締約国会議)において、途上国に対して、温暖化による「損失と被害」を支援する基金の創設が合意【11月】
- 建設業許可・経審の電子申請システム運用開始【'23年1月】
- 経審改正でCCUS導入を加点【1月】
- 空調設備工事大手7社が「設備BIM研究連絡会」設立【3月】
- 電設協と日空衛が「適切な工期設定及び契約変更並びに『働き方改革関連法』の遵守に向けたお願い」の共同要請【4月】
- 環境省と気象庁が熱中症警戒アラートの運用開始【4月】

令和5年度
2023-24

- 第50回定時総会【5月】
北村広外志新会長選任
- なでしこ設備会見学会【6月】
リンナイ(株) 関西研修センター ほっとラボ
- 第13回配管技能コンテスト開催(38名参加)【8月】
- 青年部会・なでしこ設備会合同研修会【9月】
講演/「デズニerlandとUSJで学んだリーダーの心得4か条」清水群氏(テーマパークコンサルタント)
- 安全衛生大会【10月】
講演/「どうなる日本、どうなる日本経済
～コロナショック、そしてウクライナショックがもたらすこと」
須田慎一郎氏(経済ジャーナリスト)
- 新年交礼会【'24年1月】
- 青年部会が日本赤十字社に寄付【3月】
- 青年部会・なでしこ設備会合同施設見学会【3月】
TOTO(株) 滋賀工場

- 新型コロナが、季節性インフルエンザと同様の5類に移行【5月】
- GX(グリーンTRANSフォーメーション)推進法成立【5月】
- 兵庫県に国内初の公的実大免震試験施設完成【6月】
- 日空衛、電設協が受注時の原則に4週8閉所を提案【7月】
- 建設技能外国人一時帰国費用の助成受付開始【9月】
- インボイス制度スタート【10月】
- 阪神タイガース2度目の日本一【11月】
- COP28(国連気候変動枠組条約第28回締約国会議)において、化石燃料からの移行で初合意【12月】
- 能登半島地震M7.6【'24年1月】
- 羽田空港で日本航空機と海上保安庁機が衝突、炎上【1月】
- JAXA 探査機が月面着陸に成功【1月】
- スウェーデンがNATOに正式加盟【2月】
- 日本の名目GDPが世界4位に後退【2月】
- 日銀がマイナス金利を解除【3月】
- 日経平均株価が4万円台を突破(史上初)【3月】

歴代役員一覧

就任年度順 協会年度: 5月～翌4月
2024年(令和6年)5月1日現在

昭和

	1期		2期		3期		4期		5期		6期	
	49年度	50年度	51年度	52年度	53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度
伴 一郎 (株)西原衛生工業所 大阪店												
岡本 修 共栄工業(株)												
斎藤 久典 斎久工業(株)												
平城 勤 (株)朝日工業社 大阪支社												
両角 保 浦安工業(株) 大阪支店												
山田 光次 山田工業(株)												
東 信夫 五建工業(株) 大阪支店												
岩井 市郎 (株)大氣社 大阪支店												
蒲生 喜治 日比谷総合設備(株) 大阪支店												
桐田 鉄夫 桐田工業(株)												
斎藤 博 (株)三晃空調												
須賀 孝 須賀工業(株)												
隈田 正美 第一工業(株) 大阪支店												
鳴尾 源蔵 大阪電気暖房(株)												
藤田 初蔵 三機工業(株) 大阪支店												
船橋 明 高砂熱学工業(株) 大阪支店												
堀内 豊 理研鋼機(株) 大阪支店												
柳 宏昌 日都工業(株)												
山本 博治 日本管工業(株) 大阪支店												
堀内 史郎 第一工業(株) 大阪支店												
池田 政吉 五建工業(株) 大阪支店												
城口 庸平 (株)大阪城口研究所												
菅谷 禎次 大阪電気暖房(株) 大阪支店												
西川 正弘 (株)西川商会												
西野 真次 東洋熱工業(株) 大阪支店												
八木 俊一 菱和調温工業(株) 大阪支店												
尾亀 清四郎 (株)三晃空調												
仙田 四郎 (株)カンダン												
井尻 勝 三起水道工業(株)												
稲島 和治 三機工業(株) 大阪支店												
鴨田 守 三建設備工業(株) 大阪支店												
河原 義夫 新日本空調(株) 大阪支店												
小谷 弘之 昭和調温工業(株) 大阪支店												
後藤 光生 丸紅設備(株) 大阪支店												
坂根 昭一郎 川崎設備工業(株) 大阪支店												
須賀 新 須賀工業(株)												
西坂 幸男 協和設備工業(株) 大阪支店												
山本 英紀 ナミレイ(株)												
吉岡 源治郎 高砂熱学工業(株) 大阪支店												
古原 博 毎日工業(株)												
森田 正雄 大阪電気暖房(株) 大阪支社												

平成

7期		8期		9期		10期		11期		12期		
61年度	62年度	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
		9月										伴 一郎
												岡本 修
												斎藤 久典
												平城 勸
												両角 保
												山田 光次
												東 信夫
												岩井 市郎
												蒲生 喜治
												桐田 鉄夫
												斎藤 博
												須賀 孝
												隈田 正美
												鳴尾 源蔵
												藤田 初蔵
												船橋 明
												堀内 豊
												柳 宏昌
												山本 博治
												堀内 史郎
												池田 政吉
												城口 庸平
												菅谷 禎次
												西川 正弘
												西野 真次
												八木 俊一
												尾亀 清四郎
												仙田 四郎
											9月	井尻 勝
												稲島 和治
												鴨田 守
												河原 義夫
												小谷 弘之
												後藤 光生
												坂根 昭一郎
												須賀 新
												西坂 幸男
												山本 英紀
												吉岡 源治郎
												古原 博
												森田 正雄

昭和

平成

		4期		5期		6期		7期		8期		9期	
		55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度	3年度
岩井 清美	倉石工業(株)												
岩村 幸雄	経塚工業(株) 大阪支店												
川瀬 甲子雄	扶桑管工業(株) 大阪支店												
中井 主計	主計管工業(株)												
野口 哲	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
畑井 正孝	(社)大阪空気調和衛生工業協会												
松本 文雄	勝山設備工業(株)												
渡部 臣雄	南大阪設備工業(株)												
逸見 哲男	三建設備工業(株) 大阪支店												
黒沢 太作	斎久工業(株) 大阪支店												
斉藤 善次	須賀工業(株) 大阪支社												
塩見 浄	新日本空調(株) 大阪支店												
杉浦 敏郎	三機工業(株) 大阪支店												
中田 勉	東洋熱工業(株) 大阪支店												
林 昭八郎	菱和調温工業(株) 大阪支店												
松本 亮二	(株)清水工業所												
糸永 修	三建設備工業(株) 大阪支店												
清水 義一郎	(株)清水工業所												
高橋 昭武	五建工業(株) 大阪支店												
中村 實	大阪電気暖房(株) 大阪支社												
羽場 健一	(株)大氣社 大阪支店												
前田 隆司*	(株)前田商会												
松下 圭祐	須賀工業(株) 大阪支社												
吉村 久夫	斎久工業(株) 大阪支店												
杉山 光治	東洋熱工業(株) 大阪支店												
尾籠 幸二	暁建設工業(株) 大阪支店												
織部 壤	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
加賀和伊久男	(社)大阪空気調和衛生工業協会												
河上 勝朗	(株)清水工業所												
河崎 孝太郎	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
近藤 徹*	不二熱学工業(株)												
田崎 至成	日比谷総合設備(株) 大阪支店												
近藤 英夫	(株)英商会												
山本 光彦	ガイドン(株) 大阪本社												
伊藤 良彦	(株)三晃空調 大阪本店												
農山 益祥	(株)信和工業社												
久保 文義	若林設備工業(株)												
近藤 勉	(株)英商会												
笹野 敦	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
福谷 守弘	(株)朝日工業社 大阪支社												
堀 亀久治	三機工業(株) 大阪支店												

10期		11期		12期		13期		14期		15期		16期		
4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
														岩井 清美
														岩村 幸雄
														川瀬 甲子雄
														中井 主計
														野口 哲
														畑井 正孝
														松本 文雄
														渡部 臣雄
														逸見 哲男
														黒沢 太作
														斉藤 善次
														塩見 浄
														杉浦 敏郎
														中田 勉
														林 昭八郎
														松本 亮二
														糸永 修
														清水 義一郎
														高橋 昭武
														中村 實
														羽場 健一
														前田 隆司*
														松下 圭祐
														吉村 久夫
														杉山 光治
														尾籠 幸二
														織部 壤
														加賀和伊久男
														河上 勝朗
														河崎 孝太郎
														近藤 徹*
														田崎 至成
														近藤 英夫
														山本 光彦
														伊藤 良彦
														農山 益祥
														久保 文義
														近藤 勉
														笹野 敦
														福谷 守弘
														堀 亀久治

*前田隆司、近藤徹はP62-63に再掲

昭和 平成

		8期		9期		10期		11期		12期		13期	
		63年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
松井 勇	中島工業(株)												
水田 輝義	(株)不二設備工業所												
光田 喜代司	(株)精研												
宮本 彦太郎	(株)東大阪設備工業所												
浅野 稔	須賀工業(株) 大阪支社												
小栗 鋭資	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
齋藤 観	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
仲吉 弘一*	ナミレイ(株)/大成温調(株)										11月		
橋本 哲夫	(株)南丸八建設												
伴 昭秀	(株)西原衛生工業所 大飯店												
宮内 朗	斎久工業(株) 大阪支店												
山岡 昭雄	新日本空調(株) 大阪支店												
和田 正八郎	(株)精研												
石川 英二	新日本空調(株) 大阪支店												
若林 尚史*	若林設備工業(株)												
菅谷 節	ダイダン(株)												
荒金 利廣	(株)大氣社 大阪支社												
井上 喜代一	(株)大阪空気調和衛生工業協会												
臼井 弘	須賀工業(株)												
高倉 進	ダイダン(株) 大阪本社												
福島 健	(株)三晃空調												
古野 強	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
三田村 嘉也	三機工業(株) 関西支店												
清水 洋明	(株)朝日工業社 大阪支社												
福井 朗	(株)テクノ菱和												
松本 浚嗣	須賀工業(株)												
蔭山 陽三	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
琴浦 健	三機工業(株) 関西支店												
田中 達夫	(株)精研												
廣田 精孝	東洋熱工業(株) 大阪支店												
三木 武	(株)大氣社 大阪支社												
後藤 立夫	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
堀江 詔八	斎久工業(株) 大阪支店												
秋武 浩二	不二熱学工業(株)												
出水 恭男	協和建設工業(株) 大阪支店												
市川 元樹	新日本空調(株) 大阪支店												
古原 直人	毎日工業(株)												
仙田 良行	(株)カンダン												
中曽根 潔	(株)三晃空調												
西村 常信	鳳工業(株)												
藤井 篤	須賀工業(株)												

14期		15期		16期		17期		18期		19期		20期		
12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
														松井 勇
														水田 輝義
														光田 喜代司
														宮本 彦太郎
														浅野 稔
														小栗 鋭資
														齋藤 観
														仲吉 弘一※
														橋本 哲夫
														伴 昭秀
														宮内 朗
														山岡 昭雄
														和田 正八郎
														石川 英二
														若林 尚史※
														菅谷 節
														荒金 利廣
														井上 喜代一
														臼井 弘
														高倉 進
														福島 健
														古野 強
														三田村 嘉也
														清水 洋明
														福井 朗
														松本 浚嗣
														蔭山 陽三
														琴浦 健
														田中 達夫
														廣田 精孝
														三木 武
														後藤 立夫
														堀江 詔八
														秋武 浩二
														出水 恭男
														市川 元樹
														古原 直人
														仙田 良行
														中曾根 潔
														西村 常信
														藤井 篤

※ 仲吉弘一、若林尚史はP62-63に再掲

平成

		13期		14期		15期		16期		17期		18期	
		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
前田 隆司	(株)前田商会												
近藤 徹	不二熱学工業(株)												
仲吉 弘一	ナミレイ(株)/大成温調(株)												
若林 尚史	若林設備工業(株)												
槇 淑也	ダイダン(株) 大阪本社												
伴 稔也	大阪ガス(株)												
五十嵐 庸凱	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
本木 満	三機工業(株) 関西支店												
永島 浩司	須賀工業(株) 大阪支社												
菅谷 梓	ダイダン(株)												
佐藤 左武郎	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
島岡 秀幸	新日本空調(株) 大阪支店												
角田 俊男	日比谷総合設備(株) 大阪支店												
滝井 廣明	(株)東大阪設備工業												
華本 数則	須賀工業(株) 大阪支社				9月								
濱田 展州	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
宇治 公宣	大阪ガス(株)												
大越 弘治	東洋熱工業(株) 大阪支店												
木村 正史	新菱冷熱工業(株) 大阪支社												
城口 俊雄	(株)大阪城口研究所												
高瀬 滝雄	(株)大氣社 大阪支社												
東本 昇一	(株)朝日工業社 大阪支社												
日吉 一彦	日比谷総合設備(株) 大阪支店												
安原 和利	(株)精研												
吉原 正己	ダイダン(株) 大阪支社										1月		
名張 隆司	大阪ガス(株)												
磯田 正敏	新日本空調(株) 大阪支店												
谷口 敏彦	東洋熱工業(株) 大阪支店												
畑佐 彰保	三機工業(株) 関西支店												
宮脇 一夫	斎久工業(株) 大阪支社												
塩田 憲作	大阪ガス(株)												
渥美 静夫	日比谷総合設備(株) 大阪支店											6月	
池田 忠信	(株)ダイキンアプライドシステムズ												
黒田 英彦	(株)テクノ菱和 大阪支店												
後藤 純郎	山田工業(株)												
春木 雄一	(株)三晃空調												
福井 正	東洋熱工業(株) 大阪支店												
福地 文雄	柳生設備(株)												
藤澤 清彦	ダイクウ(株)												
宮本 武房	高砂熱学工業(株) 大阪支店												
重村 義和	大阪ガス(株)												

令和

19期		20期		21期		22期		23期		24期		25期		
22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
													6月	前田 隆司
														近藤 徹
							3月							仲吉 弘一
														若林 尚史
														槇 淑也
														伴 稔也
														五十嵐 庸凱
														本木 満
														永島 浩司
														菅谷 梓
														佐藤 左武郎
														島岡 秀幸
														角田 俊男
														滝井 廣明
														華本 数則
														濱田 展州
														宇治 公宣
														大越 弘治
														木村 正史
														城口 俊雄
														高瀬 滝雄
														東本 昇一
														日吉 一彦
														安原 和利
														吉原 正己
														名張 隆司
														磯田 正敏
														谷口 敏彦
														畑佐 彰保
														宮脇 一夫
														塩田 憲作
														渥美 静夫
														池田 忠信
														黒田 英彦
														後藤 純郎
														春木 雄一
														福井 正
														福地 文雄
														藤澤 清彦
														宮本 武房
														重村 義和

平成

		16期		17期		18期		19期		20期		21期	
		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
佃 弘之	須賀工業(株) 大阪支社		■	■	■								
丸岡 敏峯	三機工業(株) 関西支店		■	■	■	■							
上西 栄太郎	(株)大気社 大阪支社			■									
中井 諒	(株)日設 大阪支店			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
羽田 修一	五建工業(株) 大阪支店			■	■	■	■	■	■	■			
塩谷 眞富	ダイダン(株) 大阪本社				■	■	■	■	■	■	■	■	■
寺本 義彦	(株)大気社 大阪第一支店				■	■	■	■					
大内 厚	高砂熱学工業(株) 大阪支店					■	■	■					
木村 之彦	木村工業(株)					■	■	■	■	■	■	■	■
清王 政志	(一社)大阪空気調和衛生工業協会					■	■	■	■	■	■	■	■
早田 茂	新日本空調(株) 大阪支店					■	■	■	■	■	■	■	
中尾 弘昭	(株)朝日工業社 大阪支社					■	■	■	■	■	■	■	■
東五十川 邦夫	須賀工業(株) 大阪支社					■	■	■	■	■	■	■	9月
吉武 秀幸	(株)三冷社 西日本支社					■	■	■	■	■	■	■	9月
久保田 敏也	日比谷総合設備(株) 大阪支店						■	■	■	■	■	■	6月
玖村 信夫	三機工業(株) 関西支社					■	■	■	■	■	■	■	
佐々木 恒己	新菱冷熱工業(株) 大阪支社					■	■	■	■	■	■	■	9月
松尾 栄介	三建設備工業(株) 大阪支店					■	■	■	■	■	■	■	
中山 幸三	東洋熱工業(株) 大阪支店							■	■	■	■	■	
山田 典夫	高砂熱学工業(株) 大阪支店							■	■	■	■	■	
吉田 省吾	(株)大気社 大阪支社							■	■	■	■	■	
大平 哲也	ダイダン(株) 大阪本社								■	■	■	■	
瀬戸口 哲夫	大阪ガス(株)								■	■	■	■	
中村 章	高砂熱学工業(株) 大阪支店								■	■	■	■	
永江 繁	(株)テクノ菱和 大阪支店								■	■	■	■	
野呂 秀夫	日比谷総合設備(株) 大阪支店								■	■	■	■	7月
大島 宏介	(株)三冷社 西日本支社									■	■	■	9月
中村 淳一	ダイクウ(株)									■	■	■	■
向井 浩	(株)大気社 大阪支社									■	■	■	■
村上 恵三	(株)三晃空調 大阪本店									■	■	■	
森内 啓治	須賀工業(株) 大阪支社									■	■	■	■
太田 隆	ダイダン(株)大阪本社									■	■	■	■
下田 敬介	日比谷総合設備(株) 大阪支店									■	■	■	■
高島 龍訓	斎久工業(株) 大阪支社										■	■	9月
田邊 宣孝	三建設備工業(株) 大阪支店										■	■	■
田淵 潤	高砂熱学工業(株) 大阪支店										■	■	3月
本多 文雄	大阪ガス(株)										■	■	■
若村 恒夫	(株)テクノ菱和 大阪支店										■	■	■
生島 清好	(株)三冷社 西日本支社											■	■
伊藤 雅基	新日本空調(株) 大阪支店											■	■
白石 文登	東洋熱工業(株) 大阪支店											■	■

令和

22期		23期		24期		25期		
28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
								佃 弘之
								丸岡 敏峯
								上西 栄太郎
								中井 諠
								羽田 修一
								塩谷 眞富
								寺本 義彦
								大内 厚
								木村 之彦
								清王 政志
								早田 茂
								中尾 弘昭
								東五十川 邦夫
								吉武 秀幸
								久保田 敏也
								玖村 信夫
								佐々木 恒己
								松尾 栄介
								中山 幸三
								山田 典夫
								吉田 省吾
								大平 哲也
								瀬戸口 哲夫
								中村 章
								永江 繁
								野呂 秀夫
								大島 宏介
								中村 淳一
								向井 浩
								村上 恵三
								森内 啓治
								太田 隆
								下田 敬介
								高島 龍訓
								田邊 宣孝
								田淵 潤
								本多 文雄
								若村 恒夫
								生島 清好
								伊藤 雅基
								白石 文登

平成

令和

		21期		22期		23期		24期		25期	
		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
白木 博之	三機工業(株) 関西支社										
菅家 誠司	新菱冷熱工業(株) 大阪支社		11月								
中島 栄鉄	(株)大気社 大阪支社		3月								
星野 宏一	(株)テクノ菱和 大阪支店										
植野 壮二	高砂熱学工業(株) 大阪支店										
古新 亮英	ダイダン(株) 大阪本社										
佐々木 賢治	新菱冷熱工業(株) 大阪支社				12月						
樽本 和芳	大阪ガス(株)										
蓮井 正昭	鳳工業(株)										
林 寿二	(一社)大阪空調和衛生工業協会										
東 琢	大阪ガス(株)										
北村 広外志	ダイダン(株) 大阪本社										
平田 順一	東洋熱工業(株) 大阪支店										
福原 保豊	須賀工業(株) 大阪支社										
金子 達哉	(株)三冷社 西日本支社										
古閑 一誠	日比谷総合設備(株) 関西支店										
小島 和人	高砂熱学工業(株) 大阪支店										
小松 良行	新菱冷熱工業(株) 大阪支社										
後藤 逸文	三建設備工業(株) 大阪支店										
瀬尾 恵勇	鳳工業(株)										
田中 幹武	新日本空調(株) 大阪支店										
辻 武寿	(株)精研										
大石 勉	(株)テクノ菱和 大阪支店										
山本 一人	高砂熱学工業(株) 大阪支店										
池田 隆之	ダイダン(株) 大阪本社										
鈴木 俊夫	(株)テクノ菱和 大阪支店										
竹田 法正	東洋熱工業(株) 大阪支店										
森田 明	ダイダン(株) 大阪本社										
今井 敏之	大阪ガス(株)										
上杉 晴一	新日本空調(株) 大阪支店										
江木 毅	新菱冷熱工業(株) 大阪支社										
西岡 毅	(株)朝日工業社 大阪支社										
赤松 孝宏	高砂熱学工業(株) 大阪支店										
荒井 泰徳	日比谷総合設備(株) 関西支店										
勝野 耕治	三機工業(株) 関西支社										
平地 秀行	鳳工業(株)										
松本 晋一	不二熱学工業(株)										
武田 和夫	(株)テクノ菱和 大阪支店										
永田 博巳	三建設備工業(株) 大阪支店										
樋口 清一	大阪ガス(株)										
河部 和生	須賀工業(株) 大阪支社										

役員一同



河部 和生 副会長

北村 広外志 会長

城口 俊雄 副会長

若林 尚史 副会長

あ行

赤井設備工業(株) 〒574-0046
大東市
赤井3-8-2
Tel 072-874-2865

(株)朝日工業社
大阪支社

(株)上杉工業

浦安工業(株)
大阪支店

(株)江坂設備工業

エルゴテック(株)
西日本支店

オーディーエー(株) 〒561-0812
豊中市
北条町3-14-4
Tel 06-6380-2787

(株)大阪城口研究所

鳳工業(株)

奥田商工(株)

か行

影近設備工業(株)
大阪支店

川崎設備工業(株)
西部支社

川惣電機工業(株)

川本工業(株)
大阪支店

木村工業(株)

協伸工業(株) 〒544-0003
大阪市生野区
小路東2-8-25
Tel 06-6758-1175

(株)共進社工業所

享和設備(株) 〒565-0832
吹田市
五月が丘南31-33
Tel 06-6389-2039

クウケン(株)

九櫻設備工業(株)

(株)グドウエンジニアリング

(株)ケンショウ

五建工業(株)
大阪支店

さ行

サノヤス・エンテック(株)

三機工業(株)
関西支社

三建設備工業(株)
大阪支店

(株)三晃空調
大阪本店

三神工業(株)
大阪支店

三宝電機(株)

(株)三冷社
西日本支社

(株)JR西日本テクシア
MC事業所

敷島煖房工業(株) 〒532-0002
大阪市淀川区
東三国3-5-14
Tel 06-6393-2021

四國機械設備(株) 〒555-0022
大阪市西淀川区
柏里3-12-26
Tel 06-6473-5165

島設備工業(株) 〒532-0012
大阪市淀川区
木川東3-8-4
Tel 06-6303-7631

主計管工(株)

城陽ダイキン空調(株)

(株)城口研究所
関西支店

新日本空調(株)
大阪支店

新菱冷熱工業(株)
大阪支社

須賀工業(株)
大阪支社

(株)精研

(株)千里技研

た行

第一工業(株)
大阪支店



第一設備工業(株)
大阪支店



大貴設備(株)

〒534-0021
大阪市都島区
都島本通3-25-1
Tel 06-6923-2361

ダイクウ(株)



大晃設備(株)



大成温調(株)
大阪支店



ダイダン(株)
大阪本社



大熱工業(株)

〒558-0013
大阪市住吉区
我孫子東3-1-30
Tel 06-6696-2273

高砂熱学工業(株)
関西支店



(株)タカネツ



(株)竹本設備



田丸産業(株)



(株)テクノ菱和
大阪支店



東洋工業(株)



東洋熱工業(株)
大阪支店



(株)TRUST



な行

西川設備工業(株)



(株)錦



(株)西原衛生工業所
大阪本店



(株)日設
関西支店



日本管工業(株)
大阪営業所



日本ファシリオ(株)
大阪本店



日本メックス(株)
関西支店



は行

(有)原設備

〒547-0011
大阪市平野区
長吉出戸8-5-20
Tel 06-6769-0310

日比谷総合設備(株)
関西支店



(株)一二三工業所



(株)不二設備工業所



不二熱学工業(株)



富士古河E&C(株)
西日本支社



(株)北祥

〒533-0033
大阪市東淀川区
東中島1-12-7-101
Tel 06-6990-1670

ま行

(株)前田商会



(株)マサキ設備



丸住(株)

〒534-0011
大阪市都島区
高倉町3-13-25
Tel 06-6922-4441

美和設備工業(株)

〒591-8031
堺市北区
百舌鳥梅北町2丁70-6
Tel 072-240-3039

や行

柳生設備(株)



わ行

若林設備工業(株)



賛助会員名簿

62社

あ行

朝日機器(株)
大阪支店



アズビル(株)
ビルシステムカンパニー
関西支社



アルファ・ラバル(株)
大阪支社



安藤(株)



イシグロ(株)
西日本営業本部



因幡電機産業(株)



井下機器(株)



荻原実業(株)
関西営業所



(株)荻原製作所
西大阪支店



(株)オーケーエム
大阪支店



オーケー器材(株)



(株)オンダ製作所
西日本支店



か行

川重冷熱工業(株)
西日本支社



(株)川本製作所
大阪支店



キタックスエンジニアリング(株)
大阪本社



木村工機(株)
大阪営業本部



協立エアテック(株)
大阪支店



空研工業(株)
大阪支店



(株)古島
大阪支店



(株)コスタコーポレーション 〒541-0054
大阪市中央区
南本町4-5-7
Tel 06-6253-2435



さ行

三和鋼管(株)
大阪営業所



ジョンソンコントロールズ(株)
大阪支店



新晃工業(株)
大阪支社



(株)振興社設営 〒540-0005
大阪市中央区
上町1-27-15
Tel 06-6763-2152



新日本美風(株)



シンテック(株)
大阪営業所



住友商事マシネックス(株)
大阪オフィス



た行

タイヨージョイント(株)
大阪営業所



(株)ダイキアクシス
大阪支店



(株)大和



高井水栓(株) 〒545-0052
大阪市阿倍野区
阿倍野筋5-7-4
Tel 06-6623-6121



タカラ通商(株)



(株)多久製作所



(株)タブチ
大阪特販部



テラル(株)
関西支店



東西化学産業(株)
本社



東テク(株)
大阪支店



TOTO(株)
特販本部



TOTO関西販売(株)



東洋バルヴ(株)
大阪営業所



な行

(株)ニシテック
関西支社



ニッケイ(株)
大阪営業所



日製電機(株)
大阪空調営業所



ニッタ(株)



日本電技(株)
大阪支店



日本水処理工業(株)



は行

(株)日阪製作所



日比谷通商(株)
関西支店



(株)扶洋



(株)バルテクノ
大阪支店



北勢工業(株)



ま行

三菱電機冷熱機器販売(株)
西日本支社



森松工業(株)
大阪支店



や行

(株)大和バルブ
西日本統括支店



ヤマトヨ産業(株)
本社



ヤンマーエネルギーシステム(株)
大阪支社



ユアサ商事(株)
関西支社



(株)ユニックス
大阪営業所



(株)ヨシタケ
大阪営業所



ら行

(株)LIXIL
LWTJ
関西設備プロジェクト支店



(株)RYODEN
西日本支社



リンナイ(株)



編集後記

本年2月に迎えた設立50周年を記念し、5月14日に記念式典および記念祝賀会を多数の来賓をお迎えして、会員、賛助会員も参加して、盛大かつ成功裏に開催することができました。心より御礼申し上げます。

記念式典の北村会長の式辞の中で、「当協会は、半世紀にわたるあゆみと、業界を支える会員企業の社員による座談会等を本記念誌に掲載することにより、空調衛生工事業が次世代に魅力ある産業であることを発信し、未来へとつないでまいります」との発言がありました。

私たち、設立50周年記念誌制作委員会は、この「空調衛生工事業が次世代に魅力ある産業であることを発信し、未来へとつないでいく」ことを制作の基本理念として、広報委員・広報専門委員、青年部会およびなでしこ設備会の代表で、2022年(令和4年)12月に発足し、2024年(令和6年)6月まで計16回開催しました。

内容としては、記念誌の企画・編集・印刷等の受託者の選定に始まり、目次の構成、座談会の内容、50年のあゆみ等、広範多岐にわたり、検討を重ねて、発刊に至った次第です。当初は、目次の構成をどうするか、どのような項目を主な柱にするのか等、委員会として、なかなか方向性を見いだせない状況が続きましたが、会員企業で活躍しているメンバーの生の声をぜひ反映させてはどうかということで、座談会形式として、中心に据えることとなりました。

一方で、記念誌を手に取り、内容を見ていただかないと業界の魅力を発信できませんので、表紙をめくると、思わず引き込まれていくようなプロローグを置いてみました。記念誌として、ご期待に添えたかどうかは、皆様の判断に委ねたいと存じます。

これまでご協力を賜りました関係各位に、厚くお礼申し上げます。

2024年(令和6年)7月

設立50周年記念誌制作委員会 構成メンバー

委員長 若林 尚史

副委員長 城口 俊雄

委員 木村 之彦 / 中村 淳一 / 荒井 泰徳 / 金谷 泰久 / 柊 彰 / 福谷 篤正 / 佐野 龍 / 野口 久美子 / 岸田 莉央 / 林 寿二 / 井上 彩子 / 大金 智子

一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会 設立50周年記念誌

2024年(令和6年)7月 発行

発行 一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20

新トヤマビル3階

Tel 06-6271-0175 Fax 06-6271-0177



編集 設立50周年記念誌制作委員会

制作 日刊建設工業新聞社 大阪支社





一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会